調 査 年 報 26

平 成 25 年 度

公益財団法人　北海道埋蔵文化財センター

千歳市　キウス３遺跡 調査状況

千歳市　キウス11遺跡 調査状況

長沼町　幌内Ａ遺跡 調査状況

厚真町　イクバンドユクチセ２遺跡 調査状況

厚真町　イクバンドユクチセ３遺跡 調査状況

木古内町　大平遺跡 斜面調査状況

木古内町　新道 4 遺跡 調査状況

遠軽町　金山 6 遺跡 調査状況

厚真町　上幌内 3 遺跡出土 擦文土器

木古内町　大平遺跡出土 土偶

目　次

口絵
目次
北海道史略年表
平成25年度の調査
1　調査の概要 …… 1
2　調査遺跡
千歳市キウス３遺跡 …… 4
千歳市キウス11遺跡 …… 6
長沼町幌内Ａ遺跡 …… 10
厚真川上流域の発掘調査 …… 14
厚真町オニキシベ１遺跡 …… 16
厚真町イクパンドユクチセ２遺跡 …… 18
厚真町イクパンドユクチセ３遺跡 …… 20
厚真町上幌内３遺跡 …… 24
厚真町上幌内５遺跡 …… 30
厚真町厚幌１遺跡 …… 32
せたな町都遺跡（現地一次整理） …… 36
木古内町大平４遺跡 …… 38
木古内町大平遺跡 …… 42
木古内町札苅７遺跡 …… 46
木古内町新道４遺跡 …… 50
福島町館崎遺跡・北斗市押上１遺跡（整理） …… 54
遠軽町金山６遺跡 …… 56
遠軽町白滝遺跡群（整理） …… 58
3　現地研修会の報告 …… 60
4　協力活動及び研修 …… 62
5　平成25年度刊行報告書 …… 64
6　組織・機構 …… 65
7　職員 …… 66

北海道史略年表

本州の時代区分		年代（西暦）	北海道の時代区分		平成25年度調査遺跡および掲載遺跡の主な時期
明治～平成		A.D.1900	（近代・現代）		
江戸時代			近世	アイヌ文化期	
室町時代			中世		イクバンドユクチセ3
鎌倉時代					上幌内3
平安時代		A.D.1200	擦文文化期		上幌内3・厚幌1
奈良時代		A.D.800	オホーツク文化期		幌内A
古墳時代					キウス11
弥生時代		A.D.300	続縄文時代		キウス11
縄文時代	晩期	B.C.300	縄文時代	晩期	キウス11・幌内A・大平
					新道4
	後期	B.C.1000		後期	大平 キウス3・大平・札苅7・新道4
					キウス3・キウス11・上幌内3・厚幌1・都・札苅7・新道4・館崎・押上1
	中期	B.C.2000		中期	オニキシベ1・イクバンドユクチセ2・イクバンドユクチセ3
					上幌内5・都・大平4・金山6
	前期	B.C.3000		前期	館崎
					新道4
	早期	B.C.4000		早期	上幌内3
	草創期	B.C.7000		草創期	
旧石器時代		B.C.13000 B.C.20000 B.C.30000	旧石器時代		白滝遺跡群

平成25年度の調査

1　調査の概要

今年度は、道内５市町に所在する14遺跡で発掘調査を実施した。このうち４遺跡は前々年や前年からの継続調査である。発掘調査を工事原因別に見ると、国土交通省北海道開発局の各開発建設部が実施する道路工事に伴う調査が３市町６遺跡、同じく道路建設以外が２町２遺跡、鉄道・運輸機構が実施する北海道新幹線建設に伴うものが１町１遺跡、北海道胆振総合振興局建設管理部が行う厚幌ダム建設に伴う調査が１町５遺跡である。整理作業のみを行ったのは17遺跡である。長沼町幌内Ｄ遺跡・木古内町釜谷８遺跡・せたな町都遺跡・厚真町朝日遺跡以外は継続の整理作業で、このうち主な遺跡のみを掲載した。

以下、調査成果を時期順に略述する。各遺跡の特徴的な事項を示すようにし、時期の重複する遺構は始まりの時期あるいは主体とみられる時期を目安に記述する。なお、遺構などの（　）数字は員数であるが、時期や性格の認定作業にまで及んでいないものがあり、員数が確定していないものも多い。

旧石器時代　千歳市キウス３遺跡から黒曜石の細石刃１点が出土している。

縄文時代　**早期**　各地で少量の遺物が確認されており、厚真町上幌内３遺跡では東釧路Ⅳ式土器がややまとまって出土している。木古内町大平４遺跡で頁岩の剥片集中(1)が検出され、東釧路Ⅳ式土器が出土している。

前期　木古内町新道４遺跡では後半のフラスコ状土坑(5)が検出されている。厚真町厚幌１遺跡ではこの時期の土器が断片的に出土している。

中期　新道４遺跡で後葉大安在Ｂ式期の竪穴住居跡(1)、大平４遺跡で後葉大安在Ｂ式期及び煉瓦台式期の竪穴住居跡(2)と土坑(10)が検出されており、木古内町札苅７遺跡でも煉瓦台式期の土器が出土している。後半期から後期初頭あるいは前半にかけて厚真町では、昨年に引き続きオニキシベ１遺跡において土坑(6)・Ｔピット(2)が、イクバンドユクチセ２遺跡で土坑(2)・Ｔピット(10)が、イクバンドユクチセ３遺跡で竪穴住居跡(4)・土坑(4)・Ｔピット(44)・焼土(8)・石組炉(2)などが検出された。遠軽町釜山６遺跡は、後半期から後期前葉と想定できる小規模な石器製作址で、黒曜石剥片の集中(6)が湧別川の段丘縁辺に点在する。

後期　厚真町では厚幌１遺跡で初頭の竪穴住居跡(1)と土器が検出されている。また、中期で紹介したものと時期的に重複するが、中期末から後期前葉にかけてとみられるＴピットが、厚幌１遺跡(17)、上幌内３遺跡(10)、上幌内５遺跡(13)と狭い範囲で多くの検出があった。Ｔピットは列をなす溝状のものが多いが、楕円形・小判形・円形(小型)もあり、円形が溝状に重ねて作られる例もある。イクバンドユクチセ３遺跡では前半期とみられる大規模な礫集中がある。礫の多くは被熱し骨片の点在がみられる。

千歳市キウス３遺跡では中葉や末葉の土器集中(各１)が検出され、長沼町幌内Ａ遺跡では中葉ウサクマイＣ式土器のまとまりがみられた。

木古内町では新道４遺跡で竪穴住居跡(9)が検出され、うち４軒が28年前調査の竪穴と接続した。後葉にはフラスコ状土坑(2)を含む土坑群があり、遺物では前葉（トリサキ式・大津式・白坂３式）、後葉（堂林式）の土器が多く出土する。また、晩期にかけての土製品・石製品も多く、土偶も出土した。札苅７遺跡では前葉の竪穴住居跡(4)、後葉堂林式期の竪穴住居跡(8)が検出され、集落の形成が確認された。全域は中期後葉から後期中葉にかけてとみられる、大型と小型のフラスコ状土坑・土坑群で、前葉の土坑には涌元式・トリサキ式の土器が入っていた。大平４遺跡では前葉の遺物がみられ、太平遺跡では前葉・後葉の遺物、特に後葉の土偶の出土が注目される。

晩期　初頭の土器が厚幌１遺跡から、少数だが出土している。大平遺跡では段丘上から、小砂利を被せた中葉の土坑・土坑墓(8)が検出された。土器のほか赤色漆塗櫛やアオザメの歯が副葬されていたものもある。また土器が重ねて入れられた後葉の小ピット(2)も検出されている。斜面から段丘下にかけては中～後葉の遺物が土器を主体に出土し、中葉とみられる土偶や斜面に広がる後葉の遺物集中、搬入品の亀ヶ岡系の赤彩土器などが検出された。新道４遺跡では、後期の竪穴の覆土などから多量の中葉の土器が出土している。幌内Ａ遺跡から出土する土器は後葉が主体で、遺構も土坑(5)・礫集中(6)などが検出され、旧河道砂礫層からも同期の遺物が出土している。千歳市キウス11遺跡では、後葉の土器が入った墓とみられる楕円形皿状の土坑があった。

続縄文文化期　キウス11遺跡の川に向かって張り出す台地上で、後北式期・北大式期の土坑・焼土群が検出されている。土坑はほとんどが墓坑とみられ、径80cm前後の円形が主体である。土器が副葬されたものや礫が坑中に充填されたものもある。キウス３遺跡で前葉の土器集中(1)があったほか、大平遺跡からも遺物が出土している。

オホーツク文化期　今年度の調査では検出していない。

擦文文化期　厚幌１遺跡で中期後半から後期前半とみられる土器集中(1)と土坑(1)が検出された。上幌内３遺跡では、後期の高坏を伴う平地住居跡(1)が検出され、周辺でもややまとまった土器の出土がみられた。大平遺跡や幌内Ａ遺跡でも少量の土器の出土があった。

アイヌ文化期　上幌内３遺跡で集落跡が確認された。平地住居跡(6)・建物跡(1)・焼土・灰集中・礫集中で構成され、刀や内耳鍋などの鉄製品も出土している。イクパンドユクチセ３遺跡でも柱穴・杭穴・焼土・礫集中などのまとまりが検出され、U字鍬先・鍋などの鉄製品も出土している。集落を構成するものとみられ検討中である。一部は擦文文化期の可能性もある。

近世　大平遺跡の段丘下標高３m以下の低位で、畑跡とみられる畝状遺構を確認した。

整理作業・報告書作成　道央圏連絡道路関係では平成18～20年度に調査した、千歳市梅川４遺跡の第Ⅰ黒色土層、祝梅川小野遺跡・梅川１遺跡の低位部の整理がまとまり最後の報告書を刊行する。平成23・24年度に調査した長沼町幌内Ｄ遺跡も墓坑群などの整理を終え報告書を刊行する。キウス３・11遺跡は継続整理となる。かんがい排水事業に伴う調査を終了した幌内Ａ遺跡は、報告書を刊行。

函館－江差道関係のうち北斗市館野地区の遺跡の整理作業では、館野２遺跡Ｃ地区の報告書を刊行。館野６遺跡補償道路部分の整理作業を展開している。昨年度調査を終えた木古内町釜谷８遺跡と札苅６遺跡も整理作業ののち、報告書を刊行。北斗市当別川左岸遺跡や、継続調査の札苅７遺跡と大平４遺跡は整理作業を展開、多量の遺物を検出して調査を終えた大平遺跡も整理作業に取り掛かっている。

厚幌導水路関係事業は継続調査で、厚幌１遺跡も継続に向けての整理作業を行っている。

遠軽地区高規格道路建設関係では、白滝遺跡群の旧白滝３・５遺跡の整理作業を進め、旧白滝５遺跡の報告書を刊行した。金山６遺跡は調査を終え、整理作業を展開している。

北海道新幹線関連では平成22・23度に調査した木古内遺跡の整理がまとまり報告書を刊行。一昨年度で盛土遺構や集落などの調査を終えた木古内町大平遺跡・福島町館崎遺跡・北斗市押上１遺跡の整理作業も、報告書刊行に向け鋭意進行中である。

せたな町都遺跡の整理作業は多量の遺物が対象で、現地に仮収納していたため、一次整理をせたな町大成を拠点に実施し、二次整理をセンターで展開した。二次整理は来年度以降も継続する。

厚幌ダム事業では、調査を終えたオニキシベ１遺跡・イクパンドユクチセ２・３遺跡の整理作業を展開するとともに、上幌内３・５遺跡は継続に向けての整理作業を行っている。

朝日遺跡の整理作業も報告書刊行に向け、出土人骨・遺物を中心に展開している。

平成25年度　発掘調査および掲載遺跡位置図

平成25年度　事業別発掘調査・整理作業遺跡一覧

事業委託者		原因工事	遺跡名	所在地	調査面積（㎡）	現地調査年
国土交通省北海道開発局	札幌開発建設部	道央圏連絡道路泉郷道路工事	祝梅川小野	千歳市	整理作業	平成19・20年度調査
			梅川1	千歳市	整理作業	平成20年度調査
			梅川4	千歳市	整理作業	平成18～20年度調査
			幌内D	長沼町	整理作業	平成23・24年度調査
			キウス11	千歳市	963	平成24年度から継続
			キウス3	千歳市	3,663	新規・継続
		国営かんがい排水事業	幌内A	長沼町	1,043	新規
	函館開発建設部	高規格幹線道路函館江差自動車道建設工事	館野2	北斗市	整理作業	平成19～21年度調査
			館野6	北斗市	整理作業	平成20・21年度調査
			当別川左岸	北斗市	整理作業	平成23・24年度調査
			釜谷8	木古内町	整理作業	平成23・24年度調査
			札苗6	木古内町	整理作業	平成23年度調査
			札苗7	木古内町	10,690	新規・継続
			大平4	木古内町	1,420	平成24年度から継続
			大平	木古内町	1,700	新規
	室蘭開発建設部	厚岸導水路工事	厚岸1	厚真町	1,400	新規・継続
	網走開発建設部	旭川紋別自動車道遠軽町遠軽地区建設工事	旧白滝3	遠軽町	整理作業	平成20年度調査
			旧白滝5	遠軽町	整理作業	平成15・18・19年度調査
			金山6	遠軽町	1,587	平成23年度調査の継続
鉄道運輸機構	北海道新幹線建設局	北海道新幹線建設事業	館崎	福島町	整理作業	平成21～23年度調査
			木古内	木古内町	整理作業	平成22・23年度調査
			大平	木古内町	整理作業	平成21～23年度調査
			押上1	北斗市	整理作業	平成22・23年度調査
			新道4	木古内町	745	新規
北海道	渡島総合振興局	北檜山大成線（A地－307）工事	都	せたな町	整理作業	平成24年度調査
	胆振総合振興局	厚幌ダム建設事業	オニキシベ1	厚真町	3,314	平成24年度から継続
			イクバンドユクチセ2	厚真町	1,174	新規
			イクバンドユクチセ3	厚真町	9,321	新規
			上幌内3	厚真町	8,545	新規・継続
			上幌内5	厚真町	300	新規・継続
		道道上幌内早来（停）線地道債144（交安）事業	朝日	厚真町	整理作業	平成24年度調査
合計					45,865 ㎡	

2　調査遺跡

千歳市　キウス３遺跡（A-03-91）

事 業 名：道央圏連絡道路泉郷道路工事埋蔵文化財発掘調査

委 託 者：国土交通省北海道開発局札幌開発建設部

所 在 地：千歳市中央1473－４外

調査面積：3,663㎡

調査期間：平成25年９月３日～11月11日

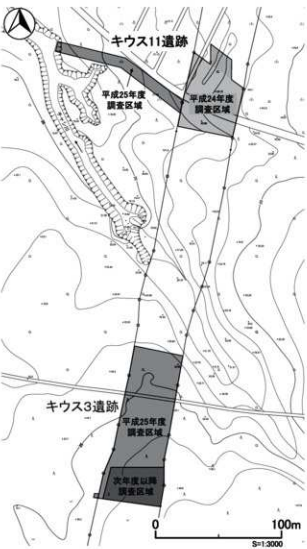
調 査 員：鈴木　信、菊池慈人、鈴木宏行、芝田直人、山中文雄

調査の概要

遺跡は、道東自動車道千歳東インターチェンジから東北東へ約700ｍ、馬追丘陵の西側緩斜面に位置する。調査区域の標高は23～26ｍを測り、現況は山林である。北側は、チャシ川（モウシ川）の源流部にあたる。

キウス３遺跡が所在する千歳市中央地区では、道央圏連絡道路建設に伴い、これまでにキウス５遺跡、キウス９遺跡、キウス11遺跡、チプニー１遺跡、チプニー２遺跡、オルイカ１遺跡、オルイカ２遺跡の発掘調査が当センターによって行われている。キウス11遺跡から西へ約300ｍの地点には、縄文時代後期の集団墓地として知られるキウス周堤墓群（国指定史跡）がある。

遺跡位置図　【国土地理院の数値地図1:50000（地図画像）「恵庭」（平成13年発行）を使用】



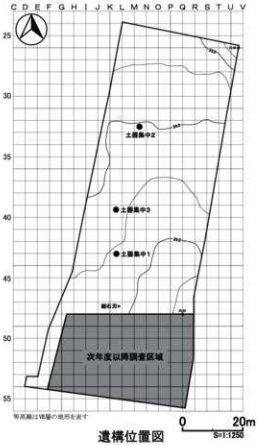
調査範囲と周辺の地形

基本層序は、Ⅰ層：表土・耕作土、Ⅱ層：樽前（たるまえ）aテフラ、Ⅲ層：第Ⅰ黒色土、Ⅳ層：樽前cテフラ、Ⅴ層：第Ⅱ黒色土、Ⅵ層：漸移層、Ⅶ層：黄褐色土、Ⅷ層：恵庭aテフラである。発掘調査は、樽前cテフラより下位のⅤ・Ⅵ層を対象に行った。

遺構と遺物

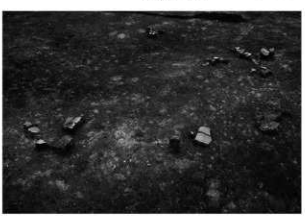
遺構として記録したものは、土器集中3か所である。土器集中1は、縄文時代後期末葉～晩期前葉、2は続縄文時代前葉、3は縄文時代後期中葉の破片のまとまりである。1・3はⅤ層、2はⅢ層から出土した。

遺物は土器約700点、石器等約50点である。土器は、縄文時代後期中葉・後葉のものが多く、注口土器の破片も得られている。石器は、昨年度調査したキウス11遺跡と同じく、磨製石斧の刃部破片と石鏃が多い。なお、K47区のⅥ層から、細石刃1点が折損した状態で出土している。



遺構位置図

土器集中3



土器集中2

細石刃

千歳市　キウス11遺跡（A-03-288）

事 業 名：道央圏連絡道路泉郷道路工事埋蔵文化財発掘調査

委 託 者：国土交通省北海道開発局札幌開発建設部

所 在 地：千歳市中央410－2

調査面積：963㎡

調査期間：平成25年９月９日～11月８日

調 査 員：鈴木　信、菊池慈人、鈴木宏行、芝田直人、山中文雄

調査の概要

遺跡は、道東自動車道千歳東インターチェンジから東北東へ約900ｍ、馬追丘陵の西側緩斜面に位置する。上記事業に伴う本遺跡の発掘調査は、平成24年度にも行われており、土器集中４か所、双礫２か所、土器約900点、石器等約70点が検出されている。今回の調査区域は、チャシ川（モウシ川）の源流部北側（右岸）にあたり、標高は18～22ｍを測る。西端は崖になっており、崖下を流れるチャシ川との比高は約４ｍである。現況は山林で、源流部の沢地形を挟んだ南側にキウス３遺跡がある。基本層序はキウス３遺跡と同じであるが、樽前ｃテフラ（Ⅳ層）は上位の第Ⅰ黒色土（Ⅲ層）と混じり合っており、層として認められなかった。

遺構と遺物

遺構は、土坑・土坑墓34基（ⅢＰ－１～34）、焼土19か所（ⅢＦ－１～19）、礫集中２か所（ⅢＳ－１・２）で、全てⅢ層で検出した。土坑・土坑墓は、チャシ川へ地形が張り出すｖライン以西に分布しており、いくつかのまとまりに分かれる。坑底の遺物等から縄文時代晩期後葉、続縄文時代後半の後北式期・北大式期の三つの時期がある。

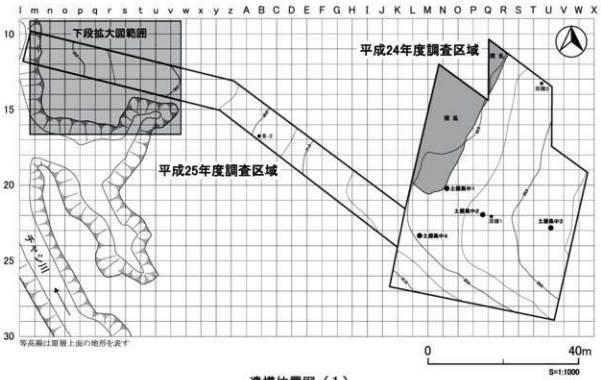
縄文時代晩期後葉のⅢＰ－12は、掘り込みが浅いⅢ状の形態を呈する。坑底で大型の土器片が出土した。後北式期のⅢＰ－19の掘削により、一部が失われている。

後北式期のものは、ⅢＰ－10・19・33等がある。10・19は、坑底の平面が長径0.９ｍ前後の円～楕円形で、確認面（主にⅤ層上位、以下同じ）からの深さは約0.６ｍを測る。一方、33は坑底の平面が長径約0.５ｍの円形ぎみで、確認面からの深さは約0.２ｍを測る。19の坑内では、覆土の傾斜に沿って、後北式の破片が多数出土し、坑底には礫が４個置かれていた。33の坑底では、後北式の大型破片が得られている。

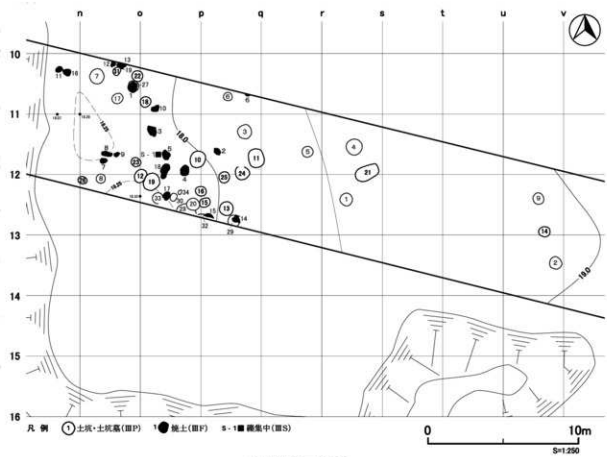
北大式期のものは、ⅢＰ－１・９・20等がある。１・９は、遺構の集中部分から東側に位置し、20はⅢＰ－28を一部壊して掘り込まれている。三者とも坑底の平面は長径0.８ｍ前後の円形ぎみで、確認面からの深さは約0.４ｍを測る。９の坑底近くには袋状土坑が設けられていた。１の覆土中には、北大式土器の深鉢１個体分が壊された状態で納められており、９・20の坑底では、多数の礫が密集した状態で出土している。

焼土の多くは、調査区域西端付近のややくぼんだ地形内で検出した。土坑・土坑墓と同じく、縄文時代晩期後葉のもの、続縄文時代後半のものがあると推測される。ⅢＳ－１は長径６㎝前後の礫37個、ⅢＳ－２は長径20㎝前後の礫４個の集中である。調査区域の屈曲部から南東側で検出した遺構は、ⅢＳ－２だけである。

遺物は土器約10,700点、石器等約2,600点で、大部分がｙラインより西側のⅢ層から出土した。土器は、縄文時代晩期後葉、続縄文時代後半の北大式が主体である。定形的な石器では、黒曜石の円形掻器と楔形石器が目に付く。この他、砂岩・泥岩・チャート等の礫片が多い。



遺構位置図（1）



遺構位置図（2）

調査状況

Ⅲ P－12　遺物出土状況

Ⅲ P－10　遺物出土状況

Ⅲ P－19　遺物出土状況

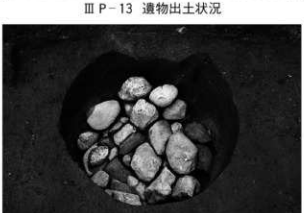
Ⅲ P－33　遺物出土状況

Ⅲ P－1　遺物出土状況

Ⅲ P－9　遺物出土状況

Ⅲ P－13　遺物出土状況

Ⅲ P－14　遺物出土状況



Ⅲ P－20　遺物出土状況

長沼町（ながぬま）　幌内（ほろない）A遺跡（E－17－1）

事　業　名：国営かんがい排水事業道央用水三期地区道央注水工埋蔵文化財発掘調査
委　託　者：国土交通省北海道開発局札幌開発建設部
所　在　地：夕張郡長沼町字幌内23－1
調査面積：1,043㎡
調査期間：平成25年6月5日～7月12日
調　査　員：鈴木　信、菊池慈人、山中文雄

調査の概要

遺跡の主体部は、長沼町の道の駅「マオイの丘公園」から南へ約3㎞、標高約25mの馬追丘陵西側緩斜面に位置する。昭和元(1926)年、長沼第四小学校の校長であった工藤祐吉氏らによる発掘が行われ、縄文時代中期・後期、擦文文化期の遺物が採集されている。

上記事業による今回の調査区域は、長沼町と千歳市の境界をなす小沢と国道337号線が接する地点の西側で、周囲の丘陵緩斜面より一段低い沖積地である。標高は約19mで、現在は水田として利用されている。調査区域から北北西に約200mの丘陵緩斜面には、上述した幌内A遺跡主体部が、すぐ南側の同緩斜面には千歳市ポロナイ遺跡が位置する。調査区域とポロナイ遺跡の間は急斜面となっており、比高は約6mを測る。今回の調査区域は、長沼町域にあるため幌内A遺跡とされたが、実態はポロナイ遺跡の縁辺部とみてよい。

基本層序は、Ⅰ層：水田関連土、Ⅱ層：樽前aテフラ、Ⅲ層：砂・シルトの互層、Ⅳ層：黒色シルト～粘土（樽前cテフラが混じる）、Ⅴ層：砂礫層である。Ⅳ層は縄文時代晩期後葉の遺物包含層で、旧河道に浸食されている部分もあるが、調査区域の東側（37ライン以東）と西側（40～45ライン間）に残存する。

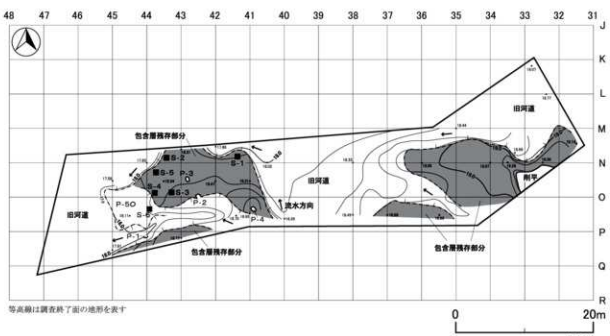
遺構と遺物

調査区域の西側で、縄文時代晩期後葉の土坑5基（P－1～5）、礫集中6か所（S－1～6）を検出した。P－1・2・5は、旧河道に浸食されており、P－1は大半が失われていた。土坑は長径0.7m前後と小型で、P－2・5が円形、P－3・4が楕円形を呈する。P－1・2では、十数個の礫がまとまって出土している。両土坑・礫集中の礫は、砂岩、泥岩、安山岩が多く、大きいもので長径約25cmを測る。

遺物は土器約4,400点、石器等約2,600点で、大部分は調査区域西側のⅣ層残存部分から出土した。土器は縄文時代晩期後葉のものが主体で、少数ではあるが、同後期中葉のウサクマイC式、擦文土器の破片のまとまりがある。旧河道からは縄文時代晩期後葉の他、同早期～後期、続縄文時代の土器が得られている。石器等の大半は黒曜石の剥片であるが、定形的な石器では、石鏃、削器、掻器、磨製石斧が比較的多い。調査区域西側のⅣ層には、焼けた獣骨片も少量含まれる。

遺跡位置図　国土地理院の数値地図1:50000(地図画像)「恵庭」(平成13年発行)を使用

調査範囲と周辺の地形



等高線は調査終了面の地形を表す

遺構位置図

調査状況

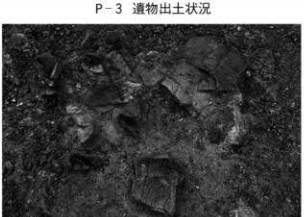
35ライン　土層断面

41ライン　土層断面

P－2　遺物出土状況

P－3　遺物出土状況

S－1　検出



土器（縄文時代後期）出土状況

土器（縄文時代晩期）出土状況

土器（擦文文化期）出土状況

厚真川上流域の発掘調査

厚幌ダムは、洪水調整、灌漑用水、水道水の確保、流水の正常な機能維持といった多目的ダムとして北海道胆振総合振興局が建設を進めている。ダム建設に伴う発掘調査は、厚真町教育委員会により平成14年（2002年）に厚幌１遺跡から開始されており、これまでに上幌内モイ遺跡、ヲチャラセナイチャシ・ヲチャラセナイ遺跡、オニキシベ２・４・５・６の各遺跡の調査が行われてきた。またダム事業に連動して厚幌導水路事業が国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部により行われており、これに伴う発掘調査のうち厚真川上流域では平成20年に厚幌１遺跡の調査が厚真町教育委員会により行われている。

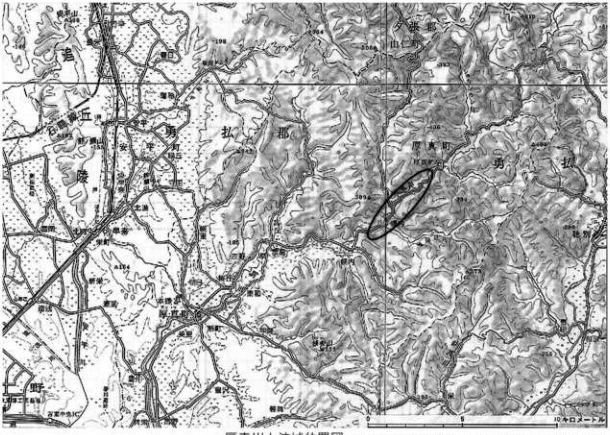
当センターによる発掘調査は、平成24年度のオニキシベ１遺跡10,566㎡から実施している。今年度は下記の通り、ダム事業関連５遺跡、導水路関連１遺跡の調査を行った。

〔厚幌ダム建設事業関連〕

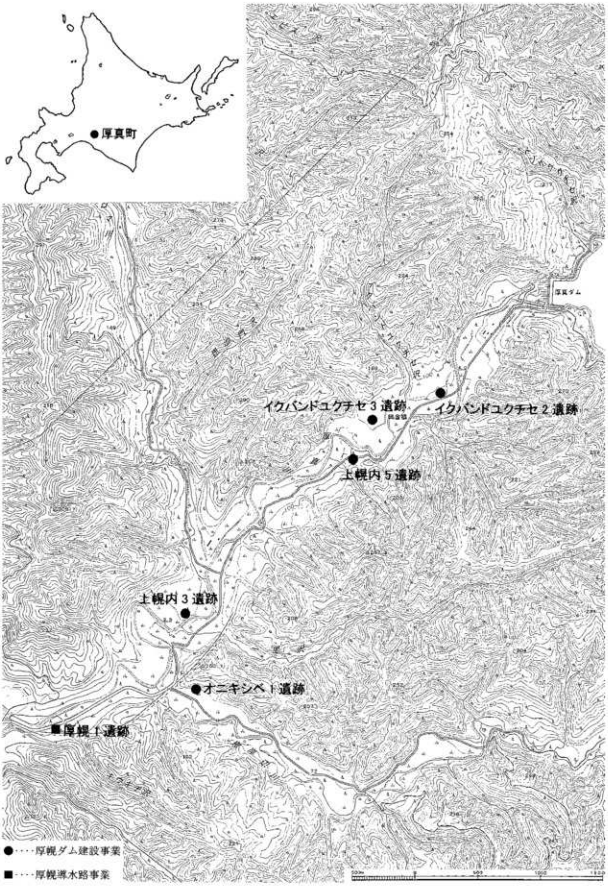
- **オニキシベ１遺跡**　（3,314㎡）
- **イクバンドユクチセ２遺跡**　（1,174㎡）
- **イクバンドユクチセ３遺跡**　（9,321㎡）
- **上幌内３遺跡**　（8,545㎡）
- **上幌内５遺跡**　（300㎡）

〔厚幌導水路事業関連〕

- **厚幌１遺跡**　（1,400㎡）



厚真川上流域位置図　国土地理院発行20万分の１地勢図『札幌』『夕張岳』を使用



遺跡位置図　国土地理院発行２万５千分の１地形図「厚真川上流」を縮小して使用

厚真町　オニキシベ１遺跡（Ｊ－13－14）

事 業 名：厚幌ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査

委 託 者：北海道胆振総合振興局

所 在 地：勇払郡厚真町字幌内409－１ほか

調査面積：3,314㎡

調査期間：平成25年５月13日～10月31日

調 査 員：村田　大、越田雅司、愛場和人、末光正卓、広田良成、冨永勝也、渡井　瞳

調査の概要

遺跡は厚真市街から北東へ約12㎞、厚真川支流の鬼岸辺川右岸に立地する。調査区は北側の山地から続く緩斜面に位置し、標高は約62～70ｍである。調査は平成24年度に調査区南東側および今年度調査区の25％調査を行い（10,566㎡）、今年度は北西側の残り3,314㎡を調査した。

基本土層はⅠ層：表土、Ⅱ層：樽前ｂテフラ層、Ⅲ層：黒色土、Ⅳ層：樽前ｃテフラ層、Ⅴ層：黒色土、Ⅵ層：漸移層、Ⅶ層：樽前ｄテフラ層、Ⅷ層：黄褐色ロームである。

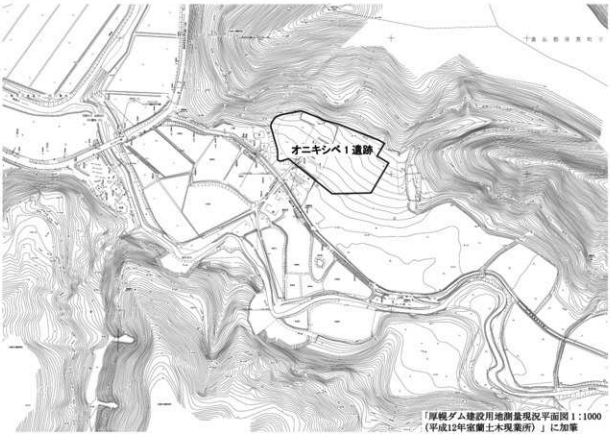
遺構と遺物

遺構は土坑６基、Ｔピット２基、集石１か所を調査した。昨年度と合わせた遺構数は竪穴住居跡５軒、土坑15基、石組炉４か所、Ｔピット15基、集石２か所である。時期は縄文時代中期後半から後期前葉が主体となる。

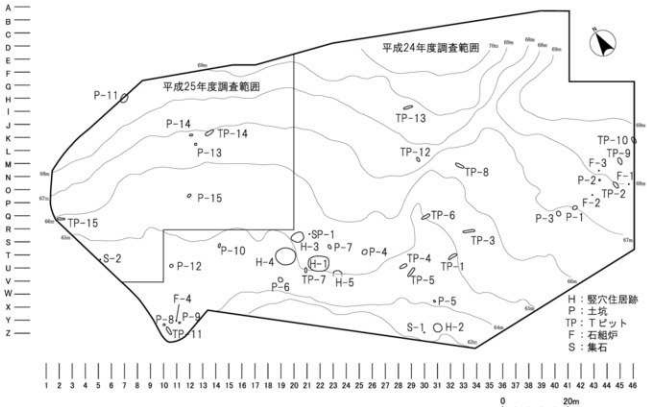
遺物は約15,500点出土し、２か年合計の点数は７万点を超える。土器は縄文時代中期後半から後期前葉が主体で、縄文時代早期後半、前期の土器も少量みられる。石器は砂岩製の砥石、石皿、台石、加工痕・使用痕ある礫が多く出土した。

Ｐ－15　遺物出土状況

ＴＰ－15　完掘



調査範囲と周辺の地形



遺構位置図

厚真町　イクバンドユクチセ２遺跡（J－13－119）

事 業 名：厚幌ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査

委 託 者：北海道胆振総合振興局

所 在 地：勇払郡厚真町字幌内61－3ほか

調査面積：1,174㎡

調査期間：平成25年８月21日～10月31日

調 査 員：村田　大、越田雅司

調査の概要

遺跡は厚真町市街地から北東へ約14㎞、厚真川右岸の河岸段丘上に立地する。標高は約80～85ｍである。調査区中央の沢状の地形は、一部の斜面部が削平されていることと、平坦に整地されている箇所があることから、現道が整備される以前に道路として利用されていたと考えられる。

「イクバンドユクチセ」とは、アイヌ語で「こちら側にある鹿待小屋」を意味する（厚真村1956）。

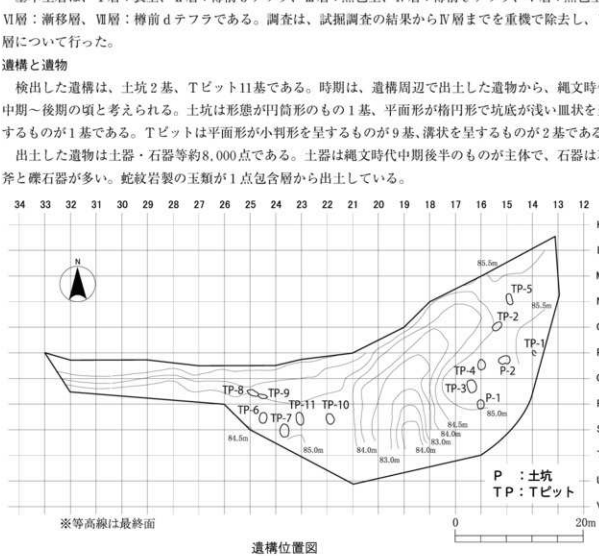
調査範囲は常時満水位以下のため、現地で測量調査を実施し確定した。また、調査区の西側が急崖となっており包含層が存在しなかったことと、東側が畑地への進入路で削平されていたことから、調査面積は当初予定の1,600㎡から1,174㎡へ減じている。

基本土層は、Ⅰ層：表土、Ⅱ層：樽前ｂテフラ、Ⅲ層：黒色土、Ⅳ層：樽前ｃテフラ、Ⅴ層：黒色土、Ⅵ層：漸移層、Ⅶ層：樽前ｄテフラである。調査は、試掘調査の結果からⅣ層までを重機で除去し、Ⅴ層について行った。

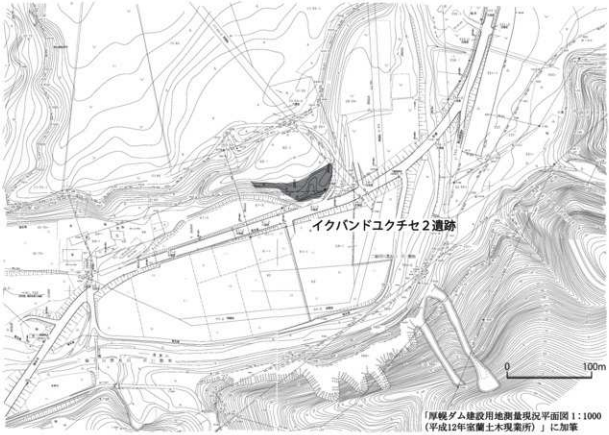
遺構と遺物

検出した遺構は、土坑２基、Ｔピット11基である。時期は、遺構周辺で出土した遺物から、縄文時代中期～後期の頃と考えられる。土坑は形態が円筒形のもの１基、平面形が楕円形で坑底が浅い皿状を呈するものが１基である。Ｔピットは平面形が小判形を呈するものが９基、溝状を呈するものが２基である。

出土した遺物は土器・石器等約8,000点である。土器は縄文時代中期後半のものが主体で、石器は石斧と礫石器が多い。蛇紋岩製の玉類が１点包含層から出土している。

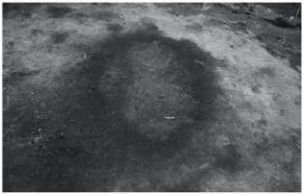


遺構位置図



周辺の地形

遺物出土状況



Ｔピット　検出状況

Ｔピット　調査状況

厚真町　イクバンドユクチセ３遺跡（Ｊ－13－120）

事 業 名：厚幌ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査

委 託 者：北海道胆振総合振興局

所 在 地：勇払郡厚真町字幌内81－3ほか

調査面積：9,321㎡

調査期間：平成25年５月13日～10月31日

調 査 員：村田　大、越田雅司、愛場和人、末光正卓、広田良成、冨永勝也、吉田裕吏洋、渡井　瞳

調査の概要

遺跡は厚真町市街地から北東へ約13㎞、厚真川の支流であるイクバンドユクチセ川の右岸、標高約80ｍの山間部の平坦な台地上に立地する。調査区のほぼ中央には北から南方向に流れる無名の沢があり、この沢の東側をＡ地区、西側をＢ地区とした。

基本土層はⅠ層：表土、Ⅱ層：樽前ｂテフラ、Ⅲ層：黒色土、Ⅳ層：樽前ｃテフラ、Ⅴ層：黒色土、Ⅵ層：漸移層で、その下位は地山で、樽前ｄテフラである。また、Ａ地区北側では樽前ｄテフラの水成二次堆積層がⅤ層を覆っているのが認められた。試掘調査の結果からＡ地区はⅢ・Ⅴ層、Ｂ地区はⅤ層の調査を行った。

遺構と遺物

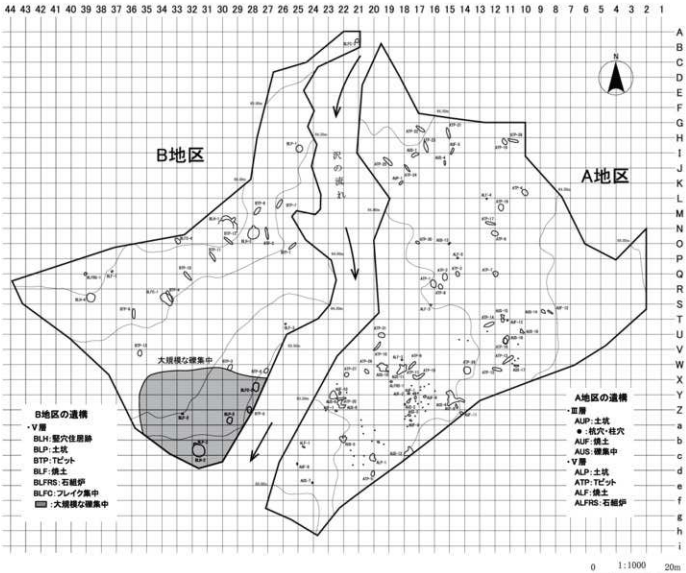
〔Ａ地区〕Ⅲ層で検出した遺構は、土坑１基、柱穴・杭穴42か所、焼土13か所、礫集中18か所である。主な時期はアイヌ文化期と推定されるが、一部擦文文化期の可能性がある。また、柱穴・杭穴、焼土、礫集中の配置などから、建物跡と推定できるものがある。Ⅴ層で検出した遺構は、土坑１基、Ｔピット31基、焼土５か所、石組炉１か所である。遺構に伴う遺物は少ないが、時期は包含層出土の遺物から縄文時代中期後半～後期初頭である。

遺物は土器、石器等が合計約20,000点出土している。礫が多く、土器、石器は少ない。

〔Ｂ地区〕検出した遺構は竪穴住居跡４軒、土坑３基、Ｔピット13基、焼土３か所、石組炉１か所、フレイク集中４か所、大規模な礫集中１か所である。遺構の主な時期は縄文時代中期後半～後期前半である。

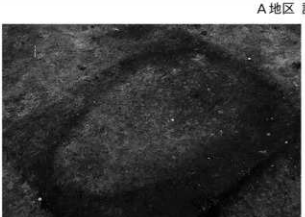
大規模な礫集中は調査区南側に位置し、東西方向約30ｍ、南北方向約25ｍの範囲から多量の礫、礫石器が出土した。被熱した礫が多く、土器、剥片石器は少ない。他にこの礫集中のⅤ層から、焼骨が点在してみられた。

遺物は土器、石器等が約250,000点出土している。礫が多く、土器の主な時期は縄文時代中期後半～後期初頭である。


B地区
A地区
沢の流れ
大規模な礫集中
B地区の遺構
・V層
BLH:竪穴住居跡
BLP:土坑
BTP:ピット
BLF:焼土
BLFRS:石組炉
BLFC:ブレイク集中
:大規模な礫集中
A地区の遺構
・IV層
AUP:土坑
:杭穴・柱穴
AUF:焼土
AUS:礫集中
・V層
ALP:土坑
ATP:ピット
ALF:焼土
ALFRS:石組炉
N
0 1:1000 20m

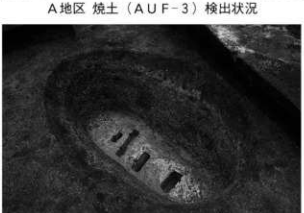
遺構位置図

A地区 調査状況

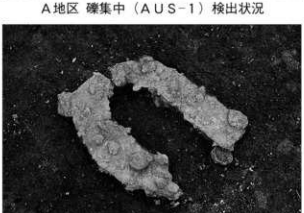


A地区 焼土（AUF-3）検出状況

A地区 礫集中（AUS-1）検出状況

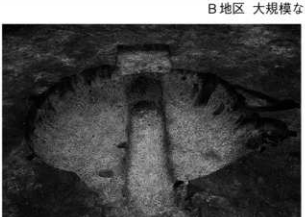


A地区 Tピット（ATP-1）完掘



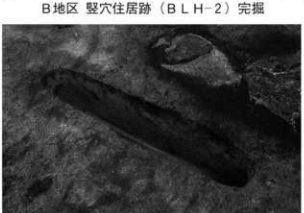
A地区 Ⅲ層鉄製品 出土状況

B地区 大規模な礫集中 検出状況



B地区 竪穴住居跡（BLH-2）完掘

B地区 竪穴住居跡（BLH-4）土器出土状況



B地区 Tピット（BTP-2）完掘

B地区 V層玉 出土状況

厚真町　上幌内３遺跡（Ｊ－13－123）

事 業 名：厚幌ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査

委 託 者：北海道胆振総合振興局

所 在 地：勇払郡厚真町字幌内101－１ほか

調査面積：8,545㎡（調査終了面積）

調査期間：平成25年５月13日～８月９日

調 査 員：笠原　興、新家水奈、阿部明義、吉田裕史洋、佐川俊一

遺跡の概要

上幌内３遺跡は厚真市街地から北東へ10～11㎞、厚真川右岸の河岸段丘上に位置する。当遺跡の南方には、低位段丘および厚真川を挟んで上幌内モイ遺跡が位置している。調査区内の標高は60～65ｍである。調査区内の地形は、北部～西部が河岸段丘の平坦部、東部が厚真川に沿う微高地、南部が舌状の台地、北西部～西部がやや深い沢跡となっている。調査区はＡ～Ｃ地区計13,000㎡に及び、このうち今年度はＣ地区8,000㎡の調査を行った（当初）。調査区北東辺にアイヌ文化期の遺構が広がることから、さらに調査面積を拡張した。

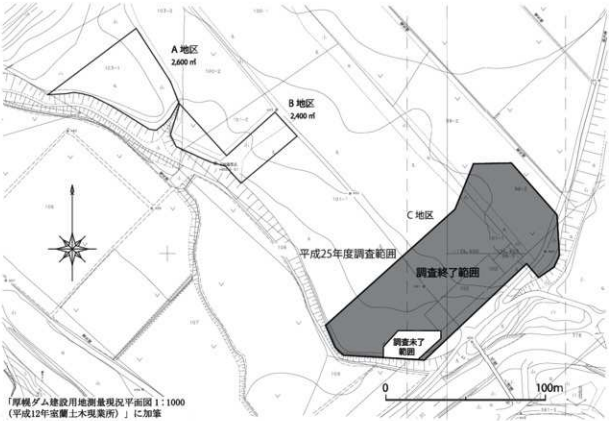
基本層序は、Ⅰ層：表土、Ⅱ層：樽前ｂテフラ（Ta－b）、Ⅲ層：（上位）黒色土、Ⅳ層：樽前ｃテフラ（Ta－c）、Ⅴ層：（下位）黒色土、Ⅵ層：漸移層、Ⅶ層：樽前ｄテフラ（Ta－d）由来のロームおよび河川堆積物層である。

遺構と遺物

擦文文化期～中世アイヌ文化期の集落を確認した。Ta－cより上位（Ⅲ層）から平地住居跡７軒、建物跡１棟、土坑１基、焼土５か所、灰集中２か所、礫集中３か所を検出した。平地住居跡は炉１～３か所、柱穴６～18基、集石などが伴う。炉は灰混じりの被熱層が確認できる。柱穴は検出が困難なものが多く、規模が不明な部分がある。長軸方向はおおむね川上（北東）に向かっているものが多い。平地住居跡のうち１軒（ⅢＨ－２）は母屋のほかに付属施設をもつ。内耳鉄鍋片を伴う。また１軒（ⅢＨ－１）は集石に擦文後期の高坏が伴っており、該期の住居跡の可能性がある。建物跡は田の字状の９本柱穴で構成され、平地住居跡の柱穴よりも太く深いことから高床構造をもつものと推測される。調査区南部の舌状にのびる段丘の先端部に位置する。

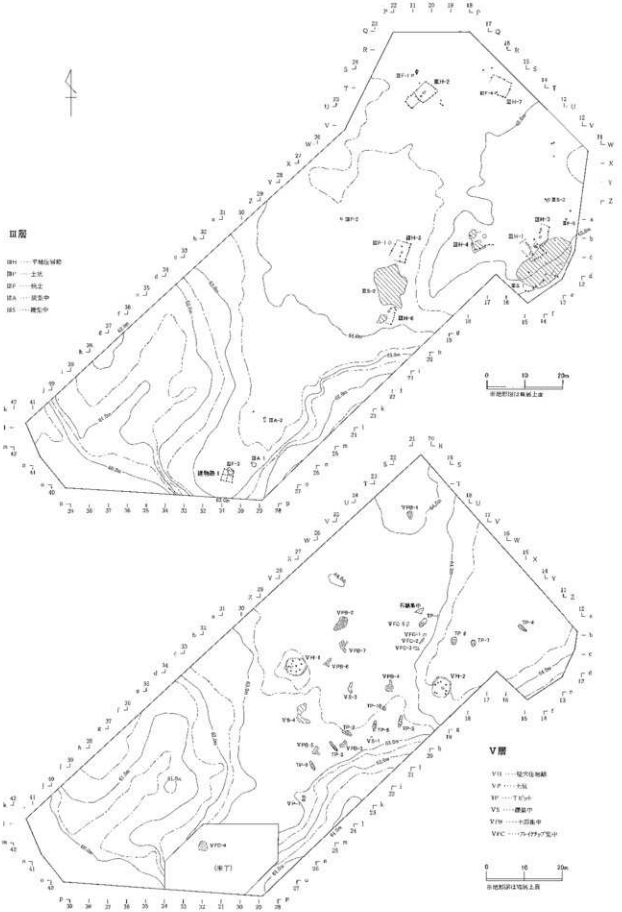
Ⅲ層出土の遺物は、土器・石器・礫・鉄製品・自然遺物がある。土器は擦文後期にほぼ限定され、甕・坏・高坏がある。石器はたたき石・台石などである。鉄製品は刀１振が浅い土坑から出土したほか、内耳鉄鍋片・刀子・板状のものなどが少数出土している。礫は長楕円体のいわゆる棒状礫が多数出土しており、ほかに板状礫なども多い。

Ta－cより下位（Ⅴ層）からは、竪穴住居跡２軒、Ｔピット10基、土器集中７か所、石鏃集中１か所、フレイクチップ集中５か所、礫集中３か所を検出した。竪穴住居跡は縄文時代後期余市式土器を伴い、石組み炉をもつ。掘り込みは浅く、輪郭が不明瞭である。うち１軒は覆土に多量の礫が含まれていた。Ｔピットは溝状のものが主体で、列をなす。小判形のものも少数ある。土器集中は縄文時代早期東釧路Ⅳ式の小片が密に分布するものと、後期余市式の小片群がある。フレイクチップ集中の中には、何らかの袋に収められていたと考えられる出土状態のものがある。Ⅴ層出土の遺物は、土器では余市式・北筒式・東釧路Ⅳ式が多い。石器では石鏃の点数がやや多く、石槍・石錐・つまみ付きナイフ・スクレイパー・石斧・たたき石・くぼみ石・台石などが出土している。


A 地区
2,600 ㎡
B 地区
2,400 ㎡
C 地区
平成25年度調査範囲
調査終了範囲
調査未了
範囲
0
100m
「厚横ダム建設用地測量現況平面図 1：1000
（平成12年室蘭土木現業所）」に加筆

調査範囲図

調査状況

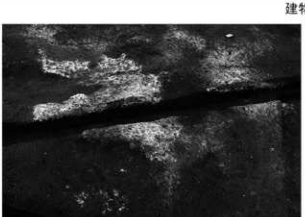

Ⅲ層
Ⅲ H …… 平城宮域紀
Ⅲ F …… 土坑
Ⅲ F …… 柱穴
Ⅲ A …… 炭窯中
Ⅲ S …… 階段中
0 10 20m
V層
V H …… 平城宮域紀
V F …… 土坑
V F …… 柱穴
V S …… 炭窯中
V W …… 井戸跡中
V W C …… ブロックチップ窯中
0 10 20m

遺構位置図

平地住居跡（擦文～アイヌ文化期）検出状況

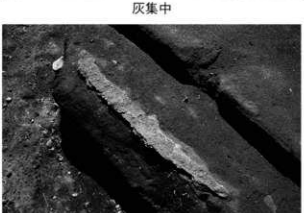
平地住居跡（アイヌ文化期）

建物跡



灰集中

礫集中

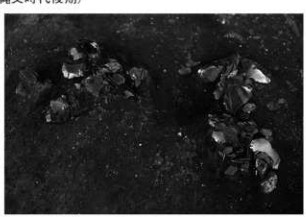


刀 出土状況

内耳鉄鍋片 出土状況

竪穴住居跡（縄文時代後期）

土器集中



フレイクチップ集中

Tピット列

厚真町　上幌内５遺跡（Ｊ－13－125）

事 業 名：厚幌ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査

委 託 者：北海道胆振総合振興局

所 在 地：勇払郡厚真町字幌内357－１ほか

調査面積：300㎡

調査期間：平成25年５月13日～８月９日

調 査 員：笠原　興、新家水奈、阿部明義、吉田裕史洋、佐川俊一

遺跡の概要

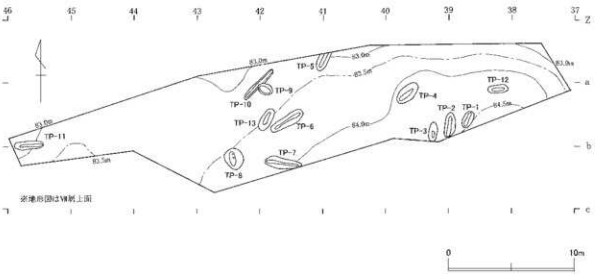
遺跡は厚真市街地から北東へ約13㎞、厚真川左岸の河岸段丘～丘陵裾部に位置する。当遺跡の北方、厚真川の対岸にはイクパンドユクチセ３遺跡が位置している。要調査面積は計14,700㎡に及び、このうち今年度は、工事用道路と道道との接続部分300㎡の調査を行った。調査区内の地形は、南側丘陵部からの斜面裾部にあたり、東側は傾斜があり西側は緩やかである。調査区内の標高は83～85ｍである。

基本層序は厚真町教育委員会によるこれまでの周辺遺跡の調査に準じ、Ⅰ層：表土、Ⅱ層：樽前ｂテフラ（Ｔａ－ｂ）、Ⅲ層：（上位）黒色土、Ⅳ層：樽前ｃテフラ（Ｔａ－ｃ）、Ⅴ層：（下位）黒色土、Ⅵ層：漸移層、Ⅶ層：樽前ｄテフラ（Ｔａ－ｄ）由来のロームおよび河川堆積物層とした。ただし、今年度調査区内の大部分は、斜面による流出や道道の側溝などによりⅡ～Ⅴ層が欠落している。

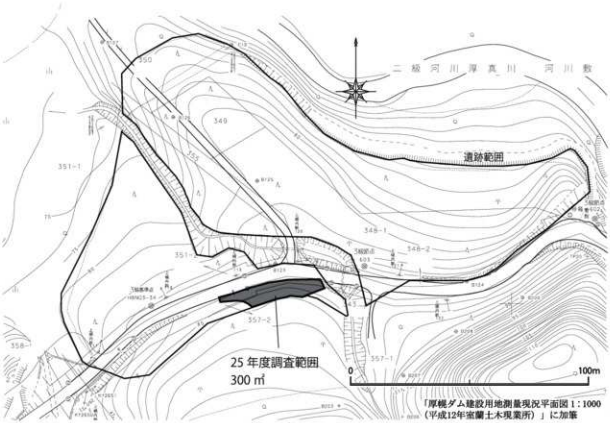
遺構と遺物

Ｔピット13基を検出した。溝状が５基、長楕円形が４基、小判形～円形が２基確認できた。調査区東部では、長楕円形のものが狭い間隔で分布する。調査区中央部では、溝状のものが南北方向に列をなしている。また小判形（ＴＰ－９）の端部が溝状のもの（ＴＰ－10）を切っている。円形のもの（ＴＰ－８）は、坑底に２基の杭穴が検出された。調査区西端部では、溝状のもの１基を検出した。

遺物は、Ｔピットの覆土から石鏃が出土している。



遺構位置図



調査範囲図

Tピット群

Tピット群

厚真町　厚幌（あつぽろ）１遺跡（Ｊ－13－25）

事　業　名：勇払東部（二期）地区厚幌導水路工事用地内埋蔵文化財発掘調査

委　託　者：国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部

所　在　地：勇払郡厚真町字幌内487－１

調査面積：1,400㎡

調査期間：平成25年８月19日～10月31日

調　査　員：阿部明義、吉田裕吏洋、佐川俊一

遺跡の概要

遺跡は厚真市街地から北東へ約10km、厚真川上流部に入った左岸の河岸段丘上に位置する。調査区内の標高は57～60ｍで、西向きの緩い斜面を有する平坦面に広がっており、調査区南部から北西部の厚真川に向かって浅い沢跡が刻まれている。当遺跡ではこれまでに、厚幌ダム関連の道道付け替え工事（平成14・15年度および24年度）、導水路建設工事（平成20年度）に伴う発掘調査が厚真町教育委員会により実施された。今回の発掘調査は後者の導水路建設事業によるもので、次年度以降も隣接地で調査が予定されている。

平成20年までの調査結果は、中世アイヌ文化期では焼土、灰集中、獣骨・炭化物集中が検出され、縄文時代では前期前葉の墓１基、中期～後期のＴピット100基以上、後期初頭の竪穴住居跡３軒などが検出されている。

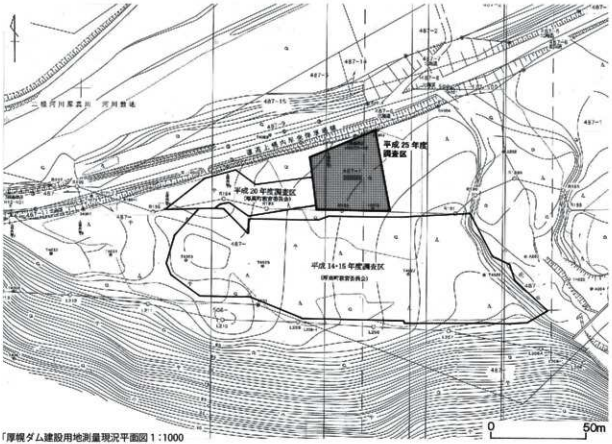
基本層序は、Ⅰ層：表土、Ⅱ層：樽前ｂテフラ（Ｔａ－ｂ）、Ⅲ層：（上位）黒色土層、Ⅳ層：樽前ｃテフラ（Ｔａ－ｃ）、Ⅴ層：（下位）黒色土層、Ⅵ層：漸移層、Ⅶ層：樽前ｄ（Ｔａ－ｄ）由来のロームおよび河川堆積物層である。

遺構と遺物

Ｔａ－ｃより上位（Ⅲ層）では、擦文文化期の小規模な活動の跡を確認した。土坑１基、土器集中１か所を検出した。Ⅲ層の遺物は土器・石器・礫約160点が出土している。土器は擦文中期後半～後期前半の甕がある。礫は長楕円体のいわゆる棒状礫が少数出土している。

Ｔａ－ｃより下位（Ⅴ層）からは、竪穴住居跡１軒、土坑１基、Ｔピット17基（平成24年調査区検出の延長の１基を含む）、焼土２か所、土器集中２か所、礫集中５か所、フレイクチップ集中３か所を検出した。竪穴住居跡は調査区東部境界付近でほぼ半分を検出した。縄文後期初頭の土器を伴い、やや大型の楕円形を呈するとみられ、掘り込みが浅い。住居跡中央付近に石の抜き取り痕のある石組炉がある。Ｔピットは溝状のものが主体で、小判形が少数ある。溝状の多くは、調査区南部～東部と東部～北部にそれぞれ列をなしている。また検出面が小判形に類する溝状のものがある。小判形のものの中には、坑底に杭穴のあるものがみられる。焼土および礫集中は沢跡またはそれに沿うものが多い。礫集中の礫は板状の角礫が多く、一部は被熱しているとみられる。

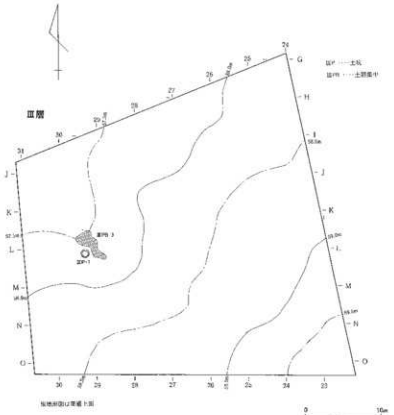
Ⅴ層の遺物は、土器・石器等約5,700点が出土している。土器は縄文時代早期～晩期の各期が出土しており、後期初頭が主体である。また前期の土器もやや多く出土している。爪形文（つめがたもん）が施された晩期初頭の土器は、厚幌１遺跡では初出である。石器では石鏃・石槍・石錐・つまみ付きナイフ・スクレイパー・石斧・すり石・たたき石・くぼみ石・台石などが出土している。フレイク類は黒曜石の微細な剥片のほか緑色泥岩片（アオトラ石）がやや目立ち、石斧の利用の跡がうかがえる。

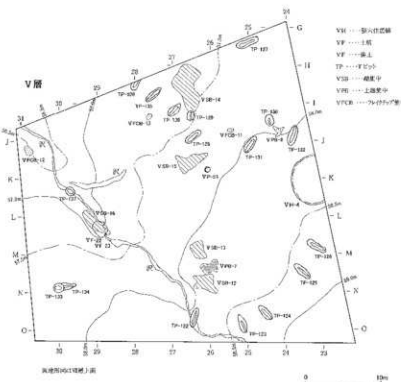


「厚幌ダム建設用地測量現況平面図 1：1000
（平成 12 年室蘭土木現業所）」に加筆

調査範囲図

調査区全景



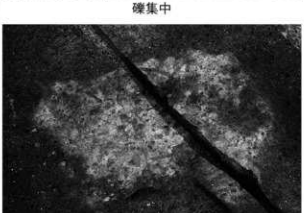


遺構位置図

竪穴住居跡（縄文時代後期）

Tピット列

礫集中



焼土

せたな町　都遺跡（C－06－10）

事　業　名：北檜山大成線（A地－307）工事埋蔵文化財発掘調査

委　託　者：北海道渡島総合振興局

所　在　地：久遠郡せたな町大成区上浦175－3番地外

整理期間：平成25年8月5日～10月25日（現地一次整理）

調　査　員：笠原　興、新家水奈

遺跡と整理の概要

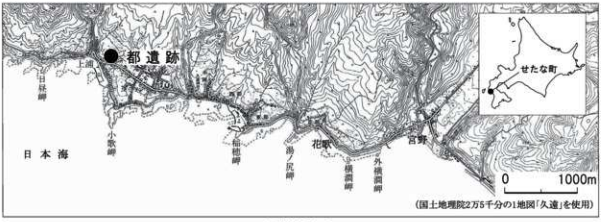
遺跡はせたな町大成区の市街地から北西側に、直線距離で約700mに位置する。標高24～28mの海成段丘に立地し、上古丹川の河口部の左岸にある。現地調査は平成24年度に行い、竪穴住居跡11軒、土坑32基、柱穴状の小土坑57基、石組炉9か所等の他、盛土遺構も検出した。遺構の時期はいずれも縄文時代中期後半から後期前葉である。遺物は収納用コンテナに換算して583箱を数えた。このうち、平成24年度中に184箱の水洗作業が終了した。平成25年度は、未水洗のまま現地に保管していた盛土遺構出土の遺物整理を行った。

未水洗遺物は399箱で、内訳は土器が113箱、石器等が286箱である。最初に土器の水洗作業から着手し乾燥の後、分類・遺物カード記入・注記作業を行い、その後遺物台帳を作成した。出土した遺物は土器が約84,000点、石器等が約153,000点で、計約237,000点である。このうち、盛土遺構から出土した遺物が約100,000点を占めている。

土器は縄文時代中期後半から後期前葉の時期のものが出土している。後期前葉の土器には、口縁部にボタン状やループ状等の貼り付けがあるものや、器面全体に撚糸文が施されたもの、様々な沈線で文様が構成されるものなどがある。特に撚糸文を多用していることが大きな特徴と言える。この他にも、道南部の同時期に出土例のある「鐸形土製品」と呼ばれるものも出土した。

石器等は約153,000点のうち、円礫や礫石器の破片が大半を占めている。盛土遺構や包含層から出土する小さな円礫は、遺跡周辺の海岸や河口付近から意図的に持ち込まれたことが考えられる。柱穴状の小土坑からも7,000点を超える小円礫が出土しているものがあり、同様の遺構が複数ある。また、大型の礫が土坑の中から見つかった例では、重さが90kgを超えるものもあった。

江別市のセンターでは、平成24年度に出土した遺物の二次整理作業を7月から開始し、現地整理作業と並行して行ってきた。これまでに約80個体の土器が復元され、拓影図の作成や石器の実測作業、データ処理、放射性炭素年代測定や火山灰分析、樹種同定や植物珪酸体分析などの各種分析委託業務も進めている。センターでの整理作業は平成26年度も行う予定である。

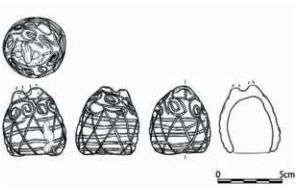


遺跡位置図

現地水洗作業

土器（縄文時代後期前葉）

盛土遺構出土の鐸形土製品（縄文時代後期前葉）



鐸形土製品 実測図

復元土器（縄文時代中期後半～後期前葉）

木古内町（きこない）　大平（おおひら）4遺跡（B－05－29）

事 業 名：高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査（大平4遺跡外）

委 託 者：国土交通省北海道開発局函館開発建設部

所 在 地：上磯郡木古内町字大平60－18・22・74・103番地

調査面積：1,420㎡（対象面積2,120㎡）

調査期間：平成25年5月13日～7月30日

調 査 員：土肥研晶、立川トマス、谷島由貴

調査の概要

遺跡はＪＲ木古内駅から北東へ約2㎞、泰七（やすしち）川左岸の標高12～15ｍの海岸線から約300ｍに位置する海岸段丘上にある。平成21・22年度に北海道新幹線建設事業による3,183㎡の発掘調査が行われ、平成24年度からは北海道開発局による高規格幹線道路事業に伴う調査が行われている。平成24年度は7,054㎡、今年度は内陸の北西側に隣接する1,420㎡の調査を行った。

調査区西側は緩傾斜で低くなっている。

基本土層はⅠ層：表土・耕作土、Ⅱ層：黒色土、Ⅲ層：暗褐色土（漸移層）、Ⅳ層：褐色ローム質土で、主にⅡ層から縄文時代の遺構・遺物を検出した。

遺構と遺物

平成21・22年度の調査では縄文時代早期後半の竪穴住居跡2軒、土坑28基、焼土3か所、礫集中1か所、剥片集中16か所が見つかっている。遺物は縄文時代早期～中期・晩期の土器663点、石器13,562点が出土した。

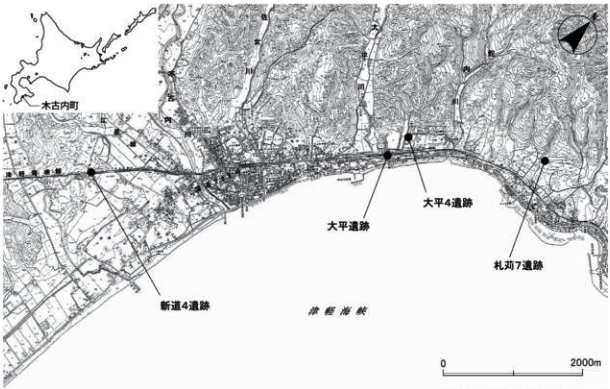
平成24年度の調査では、縄文時代中期後半の大安在Ｂ式～ノダップⅡ式期の竪穴住居跡9軒を検出している。他に土坑7基、Ｔピット1基、焼土12か所、剥片集中8か所があり、剥片集中（ＦＬ－23）からは縄文時代前期の春日町（かすがちょう）式土器が出土した。剥片集中は頁岩のやや大きな剥片が大半を占める。遺物は土器約3,000点、石器約73,000点が出土した。

今年度調査した遺構は、縄文時代中期後半の竪穴住居跡（Ｈ）2軒、土坑（Ｐ）10基、焼土（Ｆ）3か所、剥片集中（ＦＬ）5か所である。このうち住居跡Ｈ－12では2個体の大安在Ｂ式土器が床面から出土し、その周囲から石斧などの石器が出土している。また、土坑3基（Ｐ－42・43・44）と重複しているＨ－13が検出された。

土坑は規模が大小と形態が分かれる。ほとんどの土坑は伴う遺物が少ないが、その中の1基（Ｐ－37）は上部に焼土が広がり縄文時代中期後半の遺物を伴う。焼土の下に直径約3.4ｍ深さ0.3ｍの掘り込みがみられる。

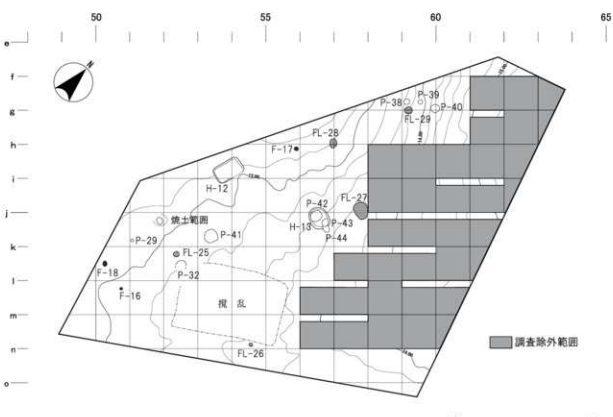
昨年度の海側の調査で検出した「剥片集中」は、大きめの頁岩フレイク剥片が主体だったが、今年度はチップが主体で検出されていることから、海側で原石を粗割して大まかな形に加工した後、山側に運び微細な調整を加えていたと推定される。ＦＬ－26では早期の東釧路Ⅳ式土器を伴う。

出土した遺物は縄文時代中期後葉から後期前葉を主体としているが、前期のものもみられる。遺物点数は暫定集計数で、土器が約2,500点、石器が約6,000点、合計約8,500点である。石器は石鏃がやや多い。

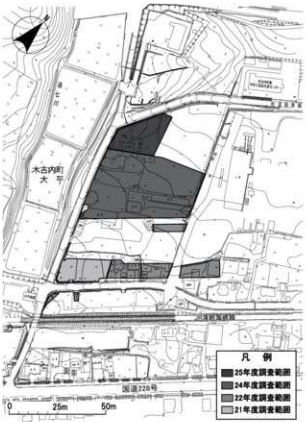


※この図は日本鉄道建設公団札幌工事事務所調製の1:10000図「木古内町現況図」に加筆して作成したものである。

木古内町内調査遺跡位置図



大平４遺跡 遺構位置図



年度別調査範囲

基本土層

調査区全景

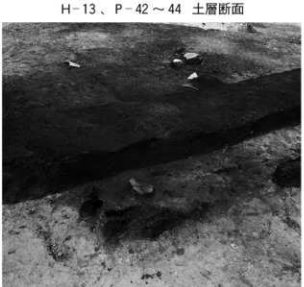
調査状況

H－12　土層断面（中位の焼土）

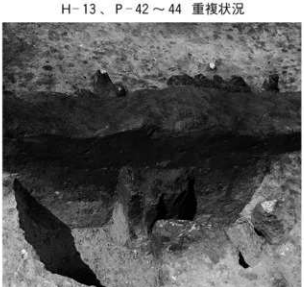
H－12　土器出土状況

H－13、P－42～44　土層断面

H－13、P－42～44　重複状況



P－37　上部の焼土 遺物出土状況



P－37　調査状況

木古内町　大平遺跡（B－05－7）

事　業　名：高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査（大平４遺跡外）

委　託　者：国土交通省北海道開発局函館開発建設部

所　在　地：上磯郡木古内町字大平63－3

調査面積：1,700㎡

調査期間：平成25年５月13日～11月８日

調　査　員：土肥研晶、立川トマス、谷島由貴

調査の概要

遺跡はＪＲ木古内駅から北東へ約２㎞、大平川と孫七川に挟まれた津軽海峡に張り出す海岸段丘上端部に、およそ25,000㎡の広さで分布する。過年度の北海道新幹線建設工事に伴う調査では、段丘の中央で縄文時代前期後半の集落跡や大規模なフラスコ状土坑群、同時期から縄文時代中期前葉に至る盛土遺構などが確認されたほか、段丘南西縁では北向きの煙道をもつ擦文文化期の集落が見つかっている。縄文時代前期の集落跡はさらに内陸側に広がるものとみられる。

今年度の発掘調査は高規格幹線道路函館江差自動車道の木古内インター建設工事に伴うもので、先の調査範囲の約30ｍ海側の津軽海峡に面する段丘端部から段丘下に至る範囲で実施された。調査範囲は大平川左岸に面しており、段丘下の包含層縁は同河川に削られ、断面が露出している。

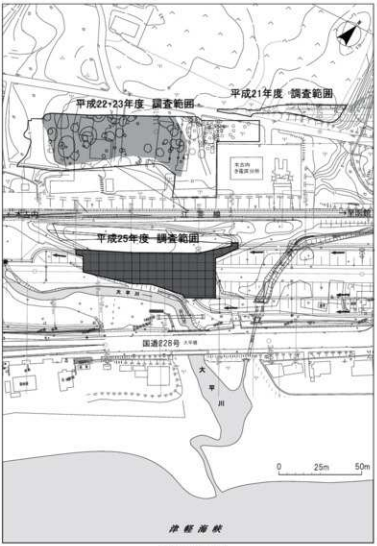
基本土層は、Ⅰ層：表土、Ⅱ層：黒色土層、Ⅲ層：Ⅱ層下にみられる黒褐色から茶褐色の土層、Ⅳ層：黄褐色ローム質土とした。Ⅱ層中には駒ヶ岳ｄ降下火山灰層（Ko－d：1640年降下）と白頭山（ばくとうさん）－苫小牧降下火山灰層（B－Tｍ：10世紀前半降下）の堆積が残る場所もあったが、主たる遺物包含層はB－Tｍ直下の黒色土で、これより上位の黒色土はⅡ上層とし遺物を区別した。Ⅱ層直下には一部で人為的な排土層がみられた。台地上のⅢ層は中位から下は無遺物層であるが、段丘下の低地部では複数に分かれて堆積し、最初に検出される遺物包含層をⅢ－２層（縄文時代晩期前葉）、次の遺物包含層をⅢ－３層（縄文時代後期後葉）とした。これより下位では遺物は確認されなかった。

遺構と遺物

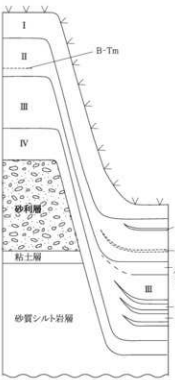
台地上で検出された遺構は、墓３基を含む土坑（Ｐ）８基、小ピット（ＳＰ）２基、焼土（Ｆ）４か所である。これらの遺構は段丘上の標高11ｍ付近からまとまって見つかっている。遺構番号は過去の調査を踏襲している。見つかった墓の時期は縄文時代晩期中葉で、確認面では小礫の集中が検出され、覆土中に礫が落ち込む状況であった。平面形は長円形や小判形で、漆塗りの縦櫛やサメの歯が副葬されたものもあった。台地上ではこのほかに縄文時代晩期後葉の土器３個体が重なって収まった小ピットも検出されている。

段丘下では、B－Tｍ層が良好に残る場所から近世のものとみられる畝状遺構（畑跡）が見つかっている。確認された範囲は狭小であるが、本来はさらに広がっていたものと考えられる。

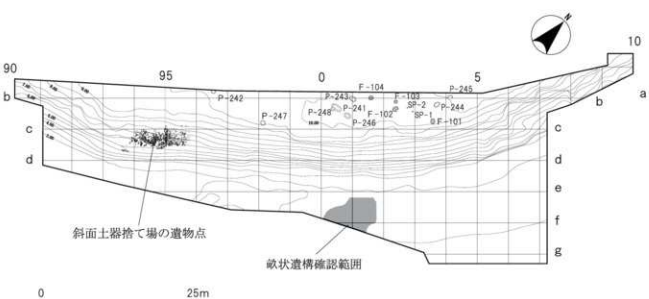
遺物は、包含層から縄文時代前期後半、後期前葉、後期後葉、晩期中葉、晩期後葉、続縄文時代、擦文文化期の各時期のものが合わせて約130,000点出土している。台地上ではB－Tｍ直下のⅡ層から主に縄文時代晩期後葉の遺物が出土し、直下のⅢ層上位で縄文時代晩期中葉の遺物が出土している。過去集落が見つかっている縄文時代前期の遺物は、磨滅した土器の細片が少数みられるだけであった。斜面中腹のＣ94・95区からは縄文時代晩期後葉の遺物約15,000点が出土し、同時期の捨て場とみられる。段丘下縁では包含層が厚く堆積し、大平川寄りでは、Ⅲ層の一部が湿地化し、遺物を含む包含層が時代毎に縞状に分かれる状況もみられ、層中からは縄文時代後期後葉・晩期中葉の土器が個体ごとにまとまって出土する状況であった。包含層からは同時期の土偶や晩期後葉の玉類も少量出土している。



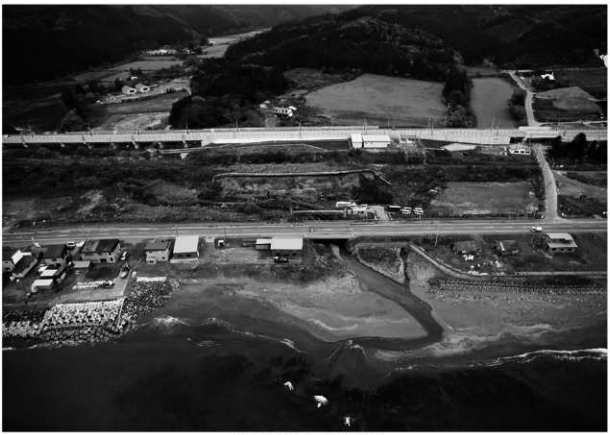
調査範囲図



土層模式図



遺構位置図



大平川河口から望む調査区

調査区全景

崖下の遺物出土状況

ＳＰ－１ 遺物出土状況

土坑墓（縄文時代晩期）

包含層遺物 出土状況

包含層遺物 出土状況

木古内町　札苅（ふつかり）７遺跡（Ｂ－05－50）

事　業　名：高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査（大平４遺跡外）

委　託　者：国土交通省北海道開発局函館開発建設部

所　在　地：上磯郡木古内町字札苅576－１番地・555－１・２番地

調査面積：10,690㎡

調査期間：平成25年５月13日～11月８日

調　査　員：土肥研晶、袖岡淳子、佐藤和雄、奥山さとみ

調査の概要

遺跡はＪＲ札苅駅より北へ500ｍに位置し、海岸に沿う低位の段丘と後背の丘陵地形との境に立地している。沢を挟み東側は、平成23年に調査を行った縄文時代中期半ばと後期前葉の集落跡の札苅６遺跡があり、南西側に700ｍ海側には北海道の亀ヶ岡（かめがおか）文化で知られる縄文時代晩期の札苅遺跡がある。

調査区の南西側は丘陵から流下する沢により開析され、標高23～29ｍの緩斜面が広がる。北西側は標高26～29ｍで比較的平坦であり、沢の氾濫原であったとみられる。この緩斜面～平坦面に面し、張り出した標高30～37ｍの斜面が続く。調査区東側は、別筋の沢に向かう南東向きの標高22～32ｍの斜面である。

基本層序はⅠ層：表土、Ⅱ層：黒色土、Ⅲ層：暗赤褐色土、Ⅳ層：黒色土、Ⅴ層：漸移層、Ⅵ層：黄褐色ローム。調査区内は杉の植林によりⅡ～Ⅲ層にかけて攪乱を受けている。竪穴住居跡のくぼみではⅡ層中に駒ヶ岳ｄ火山灰（Ko－ｄ）、Ⅲ層上面に白頭山－苫小牧火山灰（Ｂ－Ｔｍ）が薄く堆積している。

調査の結果、縄文時代後期前葉と後期後葉の集落跡であることを確認した。

遺構と遺物

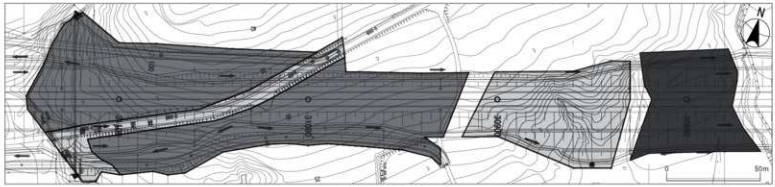
遺構は竪穴住居跡（Ｈ）12軒、土坑（Ｐ）45基、焼土（Ｆ）９か所、フレイク集中（ＦＣ）４か所を検出した。

竪穴住居跡は調査区南西側に縄文時代後期前葉、トリサキ式相当の住居跡４軒、調査区北西側の氾濫原に面する斜面と、平成26年度以降の調査予定範囲にかかる調査区東側で縄文時代後期後葉、堂林式相当の住居跡８軒を検出した。

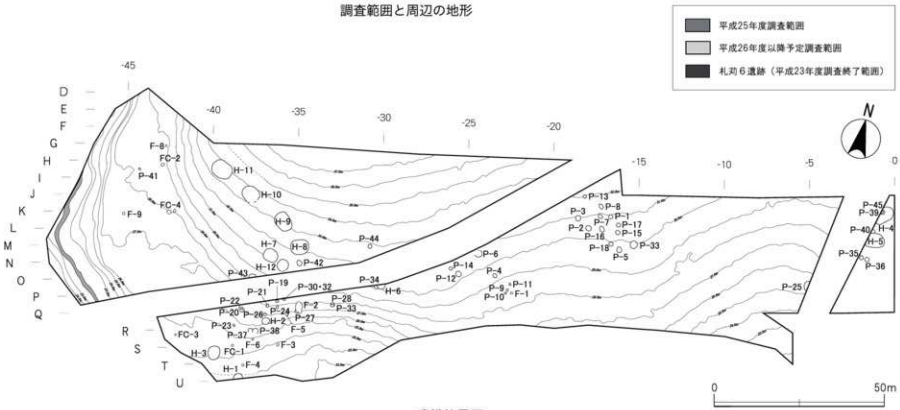
縄文時代後期後葉の竪穴住居跡は規模、覆土の堆積状況から二つの形態に分けられる。一つは平面が確認面で楕円形、長軸が５ｍ前後、覆土が自然堆積のものである。中央付近に地床炉、床面に４本の柱を持つ。出入口構造と考えられる張り出しと溝状遺構を持つ竪穴住居跡も検出した。二つ目は平面が円形に近く、直径が４ｍ程度のものである。覆土下位から床面にかけて炭化材を多く検出し、焼失住居と考えられる。覆土上位～中位はローム質土を多く含み、埋戻しと考えられる。床面中央に地床炉を持つ。いずれも床面からは堂林式相当の台付き鉢、鉢、深鉢、注口土器や石器類が出土した。このほか漆櫛の塗膜も検出されている。

土坑は調査区北東側、わずかに張り出す斜面上で大型のフラスコ状土坑を12基検出した。確認面の直径・深さは共に1.5ｍ、坑底面の径は２ｍ前後に及ぶ。土坑内やその周辺からは遺構の時期を特定できる遺物はないが、調査区東側の縄文時代後期後葉の竪穴住居跡に壊されている同形態の土坑があることから、これより古いと推測する。このほか、深さが50㎝前後、直径が１ｍほどの小型のフラスコ状土坑が調査区西側に点在し、縄文時代中期後半煉瓦台式相当や縄文時代後期前葉涌元式、トリサキ式相当の土器がまとまって出土した土坑が検出されている。

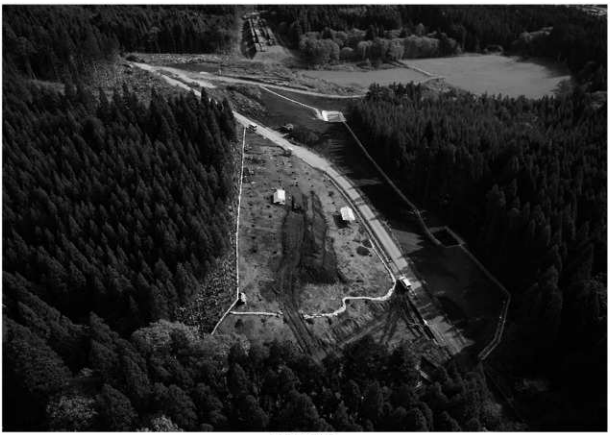
遺物は土器・石器・礫等約34,000点が出土した。調査区西側と斜面上の竪穴住居跡に多く偏る。土器は縄文時代早期～晩期で、なかでも多く出土しているものは縄文時代中期後半の煉瓦台式相当、縄文時代後期前葉の涌元式、トリサキ式相当、縄文時代後期後葉の堂林式相当である。石器は石鏃、石錐、つまみ付きナイフ、スクレイパー類、石斧、すり石、たたき石、石錘、台石・石皿などがある。



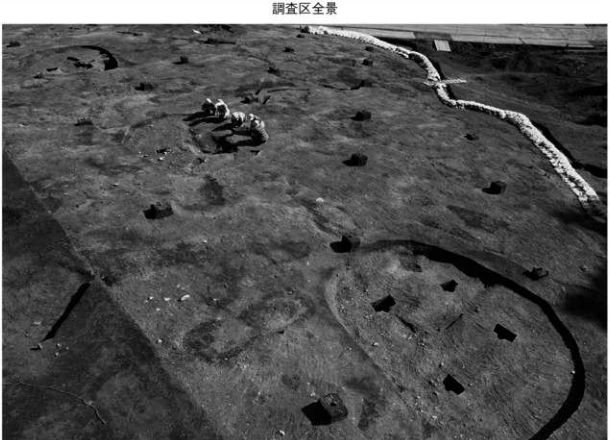
調査範囲と周辺の地形



遺構位置図



調査区全景



竪穴住居跡群（縄文時代後期後葉）

竪穴住居跡（縄文時代後期後葉）調査状況

床面遺物 出土状況（1）

床面遺物 出土状況（2）

床面遺物 出土状況（3）

フラスコ状土坑

土坑（縄文時代中期後半）

木古内町　新道（しんどう）4遺跡（B－05－27）

事　業　名：北海道新幹線建設事業地区における埋蔵文化財包蔵地の発掘調査
委　託　者：独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構
所　在　地：上磯郡木古内町字新道113番10外4筆
調査面積：745㎡
調査期間：平成25年8月1日～11月15日
調　査　員：中山昭大、酒井秀治

調査の概要

遺跡は、海岸線から1.3kmほど入った木古内川下流右岸の標高15～20mほどの平坦な海岸段丘上に広範囲に広がっている。昭和59～61(1984～1986)年度に津軽海峡線の建設に伴い、(財) 北海道埋蔵文化財センターによって15,033㎡の発掘調査が行われている。その際には、旧石器時代の細石刃文化の石器集中域や縄文時代各時期の遺構・遺物を検出した。遺物は、土器約50万点、石器約40万点が出土した。このほか縄文時代前期後半の盆状漆器や石斧の柄などの木製品、骨角器、土偶や鐸形土製品などの土製品、ヒスイの玉や石刀などの石製品が出土している。

今年度の調査区は、昭和59～61年度調査のB・C・D・G地区（現JR津軽海峡線敷地内）に隣接する場所にあたり、名称をJ・K・L地区とした。各区における遺構や遺物の状況を見ると、遺跡はさらに調査範囲外へも広がる様相を示している。

基本土層は、昭和59～61年度調査に従っている。Ⅰ層：表土（耕作土）、Ⅱ層：火山灰（白頭山－苫小牧火山灰・渡島大島b火山灰）、Ⅲ層：黒褐色～暗褐色土、Ⅳ層：黒色粘質土、Ⅴ層：暗褐色～褐色土（漸移層）、Ⅵ層：褐色土（ローム）である。主な遺物包含層は、ⅢとⅤ層である。

遺構と遺物

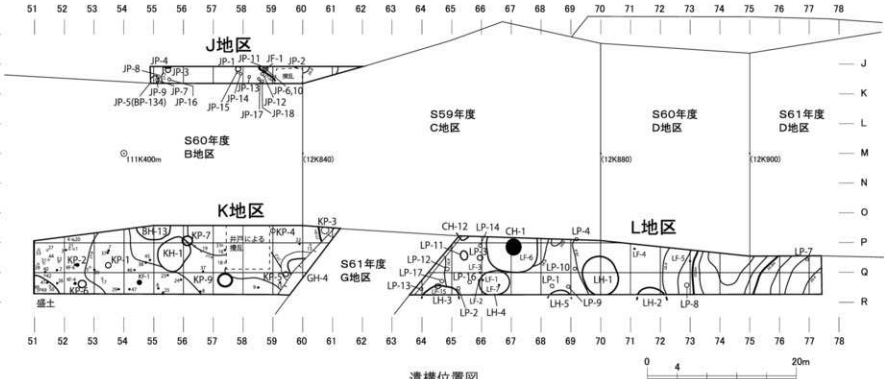
遺構は、竪穴住居跡10軒、土坑41基、柱穴様小ピット52基、焼土14か所、盛土遺構1か所を検出した。土坑のうち7基はフラスコ状土坑である。

J地区：昭和60年度B地区調査範囲の北側に隣接する51㎡の範囲である。土坑18基、焼土1か所を検出した。土坑のうち2基は、縄文時代後期後葉のフラスコ状土坑である。

K地区：昭和60年度B地区および昭和61年度G地区調査範囲の南側に隣接する340㎡の範囲である。竪穴住居跡3軒、土坑8基、柱穴様小ピット52基、焼土4か所、盛土遺構1か所を検出した。竪穴住居跡は石囲炉のある縄文時代中期後半のもの1軒、後期後葉のもの2軒である。土坑のうち5基は前期後半のフラスコ状土坑である。盛土遺構は後期前葉のもので、調査範囲南西端に一部が確認できる。

L地区：昭和59年度C地区および昭和61年度D・G地区調査範囲の南側に隣接する354㎡の範囲である。竪穴住居跡7軒、土坑15基、焼土9か所を検出した。竪穴住居跡のうち2軒は縄文時代後期後葉の焼失住居で、入口施設を検出している。CH－1の床面からは、後期後葉の倒立した大型深鉢や完形の小型深鉢・注口土器・台付鉢台部、台石などが出土している。覆土中からは焼土とともに晩期中葉の遺物が多量に出土し、土器や石器のほかに密形や皿状のミニチュア土器・有孔土製円盤・足付土器の脚部なども出土している。また、後期後葉の台付鉢も出土している。

遺物は、約50,000点が出土した。土器は、主に縄文時代後期前葉（トリサキ式・大津式・白坂3式）、後期後葉（堂林式）、晩期中葉のものが出土している。石器は、頁岩製の石鏃・石錐・スクレイパーなどの剥片石器、たたき石・すり石・台石・石皿などの礫石器が出土している。このほかに土偶の破片・有孔土製円盤・ミニチュア土器・石刀・有孔石製品などの土製品・石製品が出土している。



遺構位置図

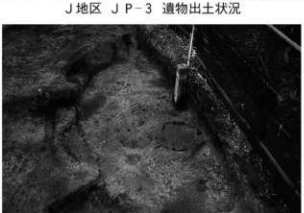
Ⅰ層：表土(耕作土)
Ⅱ層：火山灰
Ⅲ層：黒褐色～暗褐色土(遺物包含層)
Ⅳ層：黒色粘質土
Ⅴ層：暗褐色～褐色土(漸移層)
Ⅵ層：褐色土

土層模式図

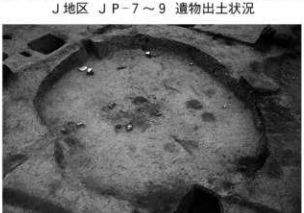
調査区遠景

Ｊ地区　ＪＰ－３　遺物出土状況

Ｊ地区　ＪＰ－７～９　遺物出土状況



Ｋ地区　ＢＨ－13　完掘



Ｋ地区　ＫＨ－１　完掘

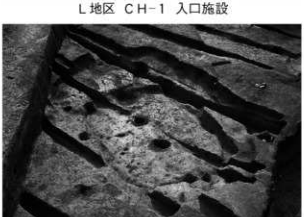
K地区 KP－6 土層断面

K地区 KP－10 土層断面

L地区 CH－1床面遺物 出土状況

L地区 CH－1 入口施設

L地区 CH－1床面土器 出土状況



L地区 LH－4 完掘

CH－1 床面出土 土器

L地区 包含層出土 石刀

福島町　館崎遺跡（B－03－2）

事　業　名：北海道新幹線建設事業のうち吉岡信通機器室の増設工事埋蔵文化財調査

委　託　者：独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部北海道新幹線建設局

所　在　地：松前郡福島町字館崎337－11ほか

整理期間：平成25年４月１日～平成26年３月31日

調　査　員：中山昭大、影浦　覚、柳瀬由佳

整理の概要

館崎遺跡は主に縄文時代前期後半から中期前半の円筒土器文化期に形成された盛土遺構と、竪穴住居跡、土坑などからなる集落遺跡である。平成21年度から23年度にかけて３か年調査を行った。合計の調査面積は2,171㎡である。整理作業は平成21年度から継続中で、今年度で５年目となる。

土器は現在、750個体を復元している。盛土遺構内という特殊な出土状況から、他の遺跡に比べて復元率は高い。盛土の形成過程がわかる資料、竪穴住居跡や土坑の性格・時期のわかる資料を中心に復元作業を進め、実測作業も継続的に進めている。

竪穴住居跡や土坑など掘り込みのある遺構が少ない地区では、盛土の堆積状況が安定的で、円筒土器下層ｄ式からやツベ沢Ⅶ式にかけて概ね層位的に出土している。掘り込みのある遺構では土器の廃棄層がいくつか確認されているが、接合作業を進めた結果、竪穴住居跡では円筒土器下層ｄ式に限られた。一方、調査区西側の、沢に向かう傾斜地において確認された大型土坑では、円筒土器下層ｄ式から上層ａ式にかけ継続的に土器の廃棄が行われていたことが明らかになってきた。

復元された土器は円筒土器下層ｄ式から上層ｂ式にかけてのものが多く、土器型式の変遷が明らかにできそうである。

石器は円筒土器文化に特徴的な石器群の特徴をよく示している。今年度は剥片石器の実測を主体に進めた。このほか骨角器の材質鑑定や玦状耳飾などの石材鑑定も行っている。報告書の刊行は平成28年度を予定している。

北斗市　押上１遺跡（B－06－73）

事　業　名：北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査

委　託　者：独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部北海道新幹線建設局

所　在　地：北斗市大工川176－26ほか

整理期間：平成25年４月１日～平成26年３月31日

調　査　員：福井淳一

整理の概要

押上１遺跡は後期初頭の盛土遺構と、竪穴住居跡、土坑などからなる集落遺跡である。平成22年度と23年度の２か年現地調査を行った。合計の調査面積は4,540㎡である。整理作業は平成24年度から継続中で、今年度で２年目となる。

土器は縄文時代後期初頭のまとまった資料で、接合・復元が完了し、実測や拓本などの作業を進めている。貼付で人体を表現したと思われる破片も出土している。石器も後期初頭の組成を示し、青龍刀形石器が出土している。現在、実測作業中である。報告書の刊行は来年度中を予定している。

館崎遺跡 接合作業状況

館崎遺跡 土器実測作業状況

館崎遺跡 復元土器

押上 1 遺跡 作業状況

押上 1 遺跡 土器実測作業状況

遠軽町　金山６遺跡（Ⅰ－17－94）

事 業 名：旭川紋別自動車道遠軽町遠軽地区埋蔵文化財発掘調査

委 託 者：国土交通省北海道開発局網走開発建設部

所 在 地：紋別郡遠軽町丸瀬布金山255－２地先河川敷地内

調査面積：1,587㎡

調査期間：平成25年８月21日～10月４日

調 査 員：鈴木宏行、芝田直人

遺跡の概要

遺跡は丸瀬布市街の北東側約２㎞に位置し、湧別川右岸の段丘面上、標高175ｍ前後に立地している。平成23年度には橋脚の建設範囲である520㎡の調査が行われ、石鏃・石槍・両面調整石器・石核などのほか多量の剥片類を含む多くの黒曜石製の遺物が得られている。今年度はその北東・南西側の隣接地の調査を行った。

基本層序はⅠ層：表土・耕作土、Ⅱ層：にぶい黄色土（シルト質）、Ⅲ層：黄褐色土（シルト～砂質）、Ⅳ層：砂礫層（長径１～50㎝程度）である。遺物はⅠ層を主体として一部Ⅱ層から出土している。遺物包含層であるⅠ・Ⅱ層は、調査区の広範囲において耕作による攪乱を受けており、わずかに段丘の西側に残るのみであった。

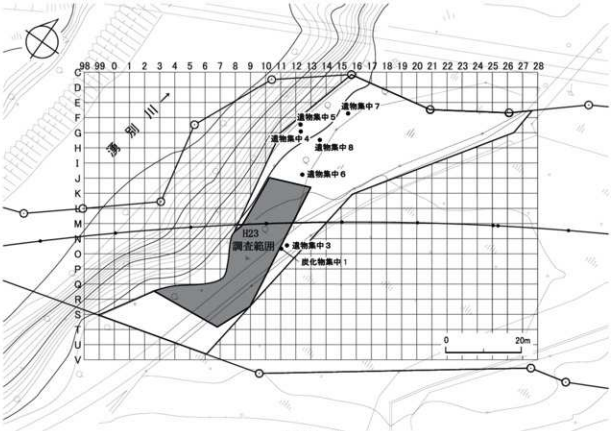
遺構と遺物

遺構は遺物集中６か所、炭化物集中１か所が検出された。それらは遺物包含層の残存範囲である西側に偏在している。耕作範囲においても西側に遺物が偏る傾向があり、遺物集中域の偏りは本来の分布を示すものと思われる。遺物集中の規模は大小あるが、原石の種類が少なく、大きな集中部においても数個体の原石から剥離されたものとみられる。

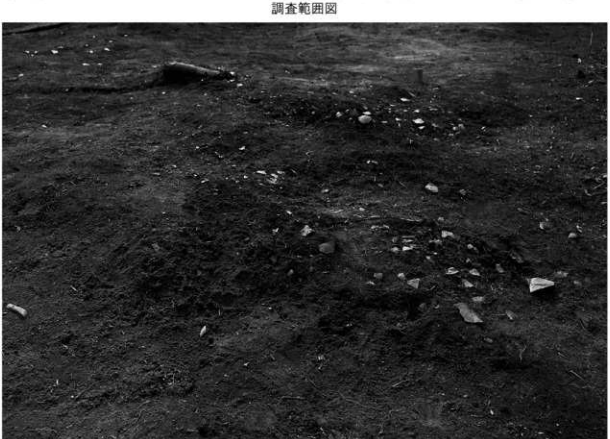
遺物は１点を除き黒曜石製の石器で、大多数の剥片以外に、石鏃･石槍･両面調整石器･スクレイパー･二次加工ある剥片・石核・原石がある。両面調整石器は石槍の未成品や製作途中の欠損品で、遺跡内では剥片素材の石槍製作が主体的に行われたものとみられる。時期は有茎の石鏃・石槍の形状、連続的な縦長剥片剥離の存在から、平成23年度の調査所見同様、縄文時代中期後半から後期前葉と考えられる。

石器以外の遺物や遺構が検出されていないことから直下の湧別川で採取できる黒曜石を利用した小規模な石器製作跡であったと想定される。

遺跡位置図



調査範囲図



遺物集中４・５　検出状況

遠軽町　白滝遺跡群

事　業　名：旭川紋別自動車道遠軽町遠軽地区埋蔵文化財発掘調査

委　託　者：国土交通省北海道開発局網走開発建設部

整理期間：平成25年４月１日～平成26年３月31日

調　査　員：坂本尚史、直江康雄

整理の概要

白滝遺跡群では、平成18年度以降に調査した遺跡について二次整理作業を行っており、今年度は「白滝遺跡群ⅩⅢ　旧白滝５遺跡（2）」を刊行した。未報告の旧白滝３遺跡（平成20年度調査）については平成26年度以降に刊行を予定している。

ここでは旧白滝３遺跡で確認された広郷型細石刃核石器群において、メノウを使用した母岩別資料が多数復元できたので、これについて記載する。

旧白滝３遺跡は黒曜石の原石山である赤石山から流れ出る幌加湧別川と湧別川の合流点から約１㎞下流に位置する。調査面積は3,300㎡、遺物出土点数は146万8,513点（地点計測67,242点）に及ぶ。

遺跡からは台形様石器、細石刃核（広郷型・札滑型・峠下型）、有舌尖頭器、小型舟底形石器などを特徴とする複数の石器群が確認されており、一部の範囲では石器群の重層的な出土状況もみられた。

出土遺物の主体をなす広郷型細石刃核石器群は、大きく３か所の遺物の集中域が認められた。とりわけＢＣ25・26区を中心とした範囲からは細石刃・細石刃核・彫器・掻器・削器・石刃・石刃核・削片・剥片などの多量の遺物が密集状態で出土した。さらに調査段階から多量の黒曜石製遺物に混じり、メノウ製石器が数多く出土している状況が認められた。二次整理において同範囲に対し接合作業を行ったところ、握り拳大のメノウ原石・石核を搬入して掻器・彫器などの特定器種を量産する母岩が、10個体ほど復元された。

上記の内容からは、①良質な黒曜石の原産地遺跡においても他石材を使用してまとまった石器製作が行われたこと、②製作されたメノウ製石器はその場で使用・遺棄されたこと、が理解できる。

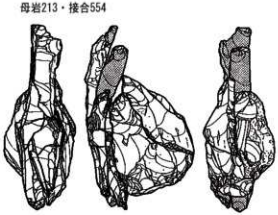
彫器・掻器については以前より頁岩・メノウなど比較的硬質の石材が、黒曜石原産地周辺においても一定程度利用される状況が留意されていた。これらの石器の機能に、より硬質な材質が適しているためと解釈され、黒曜石が豊富な地域においても重用されたことを示す。また、これまで白滝遺跡群においては、主に製品（単体石器）として搬入されたものが多く認められており、本石器群と対照的である。

メノウ製石器が出土したＢＣ25・26区は広郷型細石刃核石器群が認められた区域で、遺跡内で量産された石刃を素材に、多量の細石刃を剥離する作業状況が把握された。細石刃は植刃器として使用する組み合わせ道具であるため、使用に際しシャフト等の製作（骨角器加工）が伴うが、共伴する彫器はこれら狩猟具の製作に使用された可能性が高い。大規模な細石刃生産と狩猟具の整備に当たり必要となる加工具の供給が、原石・石核を搬入することによって並行して行われた状況が理解できる。

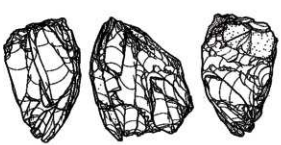
また、掻器は皮革加工の機能が推定されており、ＢＣ25・26区では狩猟具のほかにも毛皮製品が製作されていたことが考えられる。

こうした成果からは、これまで石器の加工場としての性格が強調されてきた白滝遺跡群において、骨角器加工、皮革加工などを含む複層的な生産様相が把握されたと指摘できるだろう。

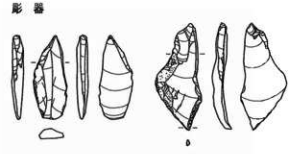
母岩213・接合554



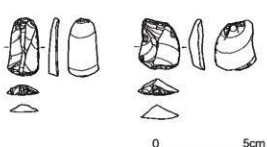
母岩209・接合544



彫器



掻器



広郷型細石刃核石器群のメノウ製石器と接合資料

3　現地研修会の報告

平成25年9月5日(木)・6日(金)の両日、八雲町・森町・函館市・木古内町において、現地研修会を行った。

5日八雲町での研修は北海道立埋蔵文化財センターの指定管理業務「市町村担当職員出前研修会」との合同開催である。今回の市町村担当職員出前研修会のテーマは、「遺跡・遺物の公開活用―史跡鷲ノ木遺跡と国指定重要文化財コタン温泉遺跡出土品の事例から―」とし、八雲町と森町での埋蔵文化財の活用、文化財保護意識の啓発の取り組みや史跡整備活動について受講し研修を積むこととした。講義は八雲町公民館と郷土資料館に会場を設けて行った。

最初の講義は森町教育委員会文化財保護課主任 高橋毅氏による「森町の遺跡と出土資料―史跡鷲ノ木遺跡など―」で、森町での考古学的調査の歴史、高速道路建設に伴う遺跡の登載数と調査の増加が紹介されたうえで、世界遺産登録に向けての鷲ノ木遺跡の史跡整備調査の状況や結果が示された。次に八雲町教育委員会文化財係長 柴田信一氏による「八雲町の遺跡と出土資料―国重要文化財コタン温泉遺跡出土品など―」では、八雲町での考古学的調査の歴史、熊石町との合併を踏まえての文化財行政が紹介され、栄浜1遺跡・コタン温泉遺跡・野田生1遺跡などの代表的遺物や旧熊石町の鮎川洞窟のメノウ入り土偶（国指定重要文化財）が解説された。午後からは、午前中の講義内容を確認しながら、八雲町郷土資料館と収蔵庫を見学した。当センターが調査した遺跡資料や国指定重要文化財コタン温泉遺跡の遺物を主体に、展示・収蔵の主旨や構成を含めた解説を柴田氏からいただいた。次いで森町に移動し、森町発掘調査整理事務所展示室の見学を、国指定史跡鷲ノ木遺跡や当センター調査遺跡資料を含めて、高橋氏の解説をもとに行い研修を終了した。多忙な中、会場設定や講義・解説の対応をしていただいた柴田・高橋の両氏に深く感謝いたします。

6日は当センターの職員研修で、はじめに発掘調査等に基いて復元公開されている函館市五稜郭の箱館奉行所を見学。史跡整備の一例を研修した。次に木古内町で実施している当センター調査の遺跡2か所の見学を行った。1か所目は札苅7遺跡で、担当の土肥課長の解説で住居跡・フラスコ状ピットなどの遺構を中心に見学した。来年度の同遺跡や函館江差道に対応する今後の調査についても説明があった。午後からは2か所目の新道4遺跡へ移動。当遺跡は30年ほど前、国鉄津軽海峡線の工事に伴って当センターが調査した遺跡の一つである。今回の調査は北海道新幹線建設に伴う防雪シェルター施工に先立つもので、以前の調査と調査区を接している状況である。担当の中山・酒井両主査の案内で出土遺物や調査中の住居跡などを見学した。以前調査した遺構の続きが検出されており注目が集まった。

以下、研修会の日程を示す。

9月5日（木）　八雲町公民館　集合
　　八雲町公民館・郷土資料館　講義・見学
　　森町発掘調査整理事務所展示室　見学
　　函館市　情報交換会・宿泊
9月6日（金）　函館市五稜郭　箱館奉行所見学
　　木古内町札苅7遺跡見学（当センター調査遺跡）
　　木古内町新道4遺跡見学（当センター調査遺跡）
　　ＪＲ札幌駅　解散

八雲町公民館　森町高橋氏の講義

八雲町公民館　八雲町柴田氏の講義

八雲町公民館前にて

八雲町資料館 見学

森町展示室 見学

木古内町　札苅７遺跡 見学

木古内町　新道４遺跡にて

木古内町　新道４遺跡 見学

4　協力活動及び研修

（1）協力活動（日付は平成25年のもの）

ア　発掘現場見学

＊木古内町　大平遺跡

6月29日　七飯町歴史館ジュニア探検クラブ　体験発掘（28名）

8月27日　北海道開発局函館開発建設部　函館道路事務所　体験発掘（3名）

＊千歳市　キウス3遺跡

9月10日　千歳高星大学第12期生　遺跡見学（51名）

イ　委員会等の会議

＊全国埋蔵文化財法人連絡協議会

5月16日・17日　第1回役員会（岩手県盛岡市　坂本（均）・和田）

6月20日・21日　総会（滋賀県草津市ほか　中田・菅野・湯田）

7月18日・19日　コンピュータ等研究委員会（徳島県徳島市　三浦・葛西・倉橋）

10月24日・25日　北海道・東北地区会議（いわき市　坂本（均）・和田・中村・前田）

12月5日・6日　第2回役員会（東京都　中田・和田・三浦）

＊北海道文化財保護協会

6月25日　第2回役員会（札幌市　千葉）

10月4日　第3回役員会（札幌市　千葉）

ウ　調査指導および講演会等の講師

＊千歳市教育委員会埋蔵文化財センター

2月13日　指定文化財写真撮影指導（千歳市　菊池）

＊えぞ地の畑研究会

3月9日　「アイヌの畑作農耕を探る」集い講師（江別市　三浦）

＊千歳市教育委員会埋蔵文化財センター

7月12日・18日、8月3日　千歳市文化財普及啓発事業体験学習会「石器をつくろう！」（千歳市　直江）

＊鈴木三男（東北大学植物園元園長）

10月13日～15日　日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究（A）「日本の縄文・弥生時代遺跡出土編組・繊維製品等素材の考古植物学的研究」（標津町　田口）

＊千歳市教育委員会埋蔵文化財センター

10月19日　「キウス遺跡群巡検」（千歳市　三浦）

＊公益財団法人石川県埋蔵文化財センター

10月24日～26日　環日本海文化交流史研究集会「舟と水上交通」講師（金沢市　鈴木（信））

＊木古内町教育委員会

11月6日　公民館教養講座

「木古内ゼミナール―札苅大平地域の古代人像―」（木古内町　土肥）

＊千歳市教育委員会埋蔵文化財センター

11月９日　千歳市文化財普及啓発事業公開講座

「キウスムラの変遷　～縄文時代～」（千歳市　阿部）

「続縄文・擦文・アイヌ文化期におけるキウス村の盛衰」（千歳市　三浦）

＊北海道開拓記念館

11月15日～19日　日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究（C）

「縄文文化の漆櫛の製作技術を復元するための研究」

（富山県小矢部市、石川県能登町、輪島市　田口）

＊南北海道考古学情報交換会

11月30日・12月１日（函館市　酒井・奥山）

＊北海道考古学会

12月14日　遺跡調査報告会（札幌市　酒井・奥山）

（２）研修（日付は平成25年のもの）

ア　外部研修

＊文化庁

２月５日～７日　平成24年度第２回埋蔵文化財担当職員等講習会（東京都　和田・佐藤（剛））

９月10日～12日　平成25年度第１回埋蔵文化財担当職員等講習会

（岐阜県岐阜市　三浦・熊谷・小笠原）

＊国立文化財機構奈良文化財研究所（奈良県奈良市）

２月13日～21日　文化財担当者専門研修「生物環境調査課程」（影浦）

９月30日～10月４日　文化財担当者専門研修「三次元計測課程」（山中）

10月17日～25日　文化財担当者専門研修「保存科学基礎Ⅱ（木製遺物）課程」（髙橋）

＊北海道教育委員会

２月５日　平成24年度アイヌ文化財専門職員等研修会

（札幌市　田口・笠原・村田・谷島・佐藤（和）・藤本・髙橋）

＊全国埋蔵文化財法人連絡協議会

11月21日・22日　研修会（埼玉県さいたま市ほか　福井・佐藤（龍）・作田）

イ　内部研修

＊平成25年度現地研修会

９月５日・６日（八雲町・函館市・木古内町　16名）

＊平成25年度発掘調査報告会

11月26日（センター研修室）

5　平成25年度刊行報告書

第301集『木古内町　札苅６遺跡』
高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

第302集『白滝遺跡群ⅩⅢ　遠軽町　旧白滝５遺跡（２）』
旭川紋別自動車道遠軽町遠軽地区埋蔵文化財発掘調査業務報告書

第303集『北斗市　館野２遺跡　Ｃ地区』
高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

第304集『木古内町　木古内遺跡』
北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書

第305集『木古内町　釜谷８遺跡』
高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

第306集『千歳市　梅川４遺跡（３）』
道央圏連絡道路工事埋蔵文化財発掘調査報告書

第307集『千歳市　祝梅川小野遺跡（３）・梅川１遺跡（３）』
道央圏連絡道路工事埋蔵文化財発掘調査報告書

第308集『長沼町　幌内Ｄ遺跡』
道央圏連絡道路泉郷道路工事埋蔵文化財発掘調査報告書

第309集『長沼町　幌内Ａ遺跡』
国営かんがい排水事業道央用水三期地区道央注水工埋蔵文化財発掘調査報告書

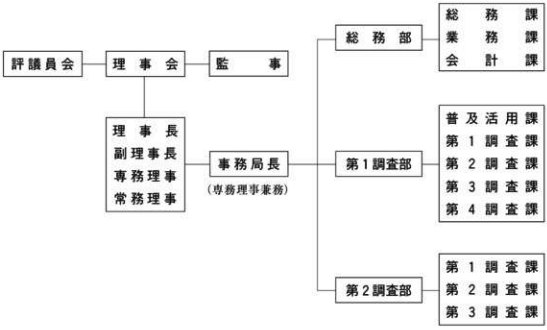
6　組織・機構

役　　員（平成25年６月21日現在）

理事長	坂本　　均
副理事長	畑　　宏明
専務理事	中田　　仁
常務理事	千葉　英一
理　事	臼杵　　勲
理　事	菊池　俊彦
理　事	越田　賢一郎
理　事	関口　　明
理　事	本田　優子
理　事	山田　悟郎
理　事	山本　伸弘
監　事	佐藤　一夫
監　事	森　重楯一

評議員（平成25年６月21日現在）

評議員	氏家　　等
評議員	遠藤　龍畝
評議員	川上　　淳
評議員	木村　方一
評議員	小西　俊之
評議員	佐藤　俊和
評議員	昌子　守彦
評議員	鶴丸　俊明
評議員	西　　幸隆
評議員	松田　光睦
評議員	松本　昭一
評議員	横山　健彦



7　職　　員（平成25年4月1日現在）

事務局長（兼務）　中田　仁

総務部

総務部長	和田基興
総務課長	葛西宏昭
主査	小杉充
参与	前田博
参与	作田千秋
業務課長	菅野聡
主査	小笠原学
主査	今本宏信
参与	湯田俊一
参与	佐藤龍夫
参与	徳田京一
会計課長	磯田千秋
主査	中村貴志

第1調査部

第1調査部長（兼務）	千葉英一
普及活用課長	鎌田望
主査	倉橋直孝
主査	藤井浩
主任	藤本昌子
第1調査課長	田口尚
主査	吉田裕史洋
嘱託	髙橋美鈴
第2調査課長	鈴木信
主査	菊池慈人
主査	鈴木宏行
主査	芝田直人
主査	山中文雄
第3調査課長	土肥研晶
主査	立川トマス
主査	谷島由貴
主査	袖岡淳子
主任	佐藤和雄
嘱託	奥山さとみ
第4調査課長	皆川洋一
主査	立田理
主査	大泰司統

第2調査部

第2調査部長	三浦正人
第1調査課長	熊谷仁志
主査	中山昭大
主査	影浦覚
主査	福井淳一
主査	柳瀬由佳
主査	酒井秀治
第2調査課長	笠原興
主査	新家水奈
主査	阿部明義
主査	坂本尚史
主査	佐藤剛
主査	直江康雄
主任	佐川俊一
第3調査課長	村田大
主査	越田雅司
主査	愛場和人
主査	末光正卓
主査	広田良成
主査	冨永勝也
嘱託	渡井瞳

調 査 年 報 26

平成25年度

平成26年３月17日発行

編集・発行　公益財団法人　北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832 江別市西野幌685-1
TEL　011-386-3231・FAX 011-386-3238
URL　http://www.domaibun.or.jp
E-mail　mail@domaibun.or.jp
印　　刷　社会福祉法人 北海道リハビリー
〒061-1195 北広島市西の里507番地１
TEL　011-375-2116㈹・FAX 011-375-2115